

豊田工業高等専門学校の
自己点検・評価報告書
(No. 5 令和2年度)

令和3年12月
独立行政法人国立高等専門学校機構
豊田工業高等専門学校

目次

1. 教育理念・目標及び三つのポリシーに関すること	1
1.1 教育理念・目標について（担当：総務主事）	1
1.2 三つのポリシーについて（担当：教務主事）	1
2. 教育活動に関すること	16
2.1 機械工学科（担当：機械工学科長）	16
2.2 電気・電子システム工学科（担当：電気・電子システム工学科長）	21
2.3 情報工学科（担当：情報工学科長）	23
2.4 環境都市工学科（担当：環境都市工学科長）	26
2.5 建築学科（担当：建築学科長）	29
2.6 一般学科（担当：一般学科長）	33
3. 学生生活に関すること	35
3.1 進路に関わる事項（本科担当：教務主事、専攻科担当：専攻科長）	35
3.2 生活指導に関わる事項（担当：学生主事）	36
3.3 学生の健康に関わる事項（担当：学生主事）	37
3.4 クラブ活動に関わる事項（担当：学生主事）	38
3.5 キャリア教育に関わる事項（担当：キャリア教育支援室長）	39
3.6 各種資格取得者数（本科担当：教務主事）	41
4. 学寮に関すること（担当：寮務主事）	43
4.1 現状	43
4.2 今後の予定	44
5. 研究活動に関すること（担当：総務主事）	45
5.1 外部資金獲得の促進にかかる取り組み	45
5.2 産業界との技術マッチングの推進	45
5.3 研究成果の知的資産化	45
5.4 外部資金の獲得	46
6. 国際交流に関すること	47
6.1 海外からの留学者（担当：国際交流センター長）	47
6.2 留学へ行く学生（担当：国際交流センター長）	47
6.3 海外インターンシップ（担当：専攻科長）	48
7. 社会との連携に関すること（担当：総務主事）	50
7.1 公開講座・出前講座	50
7.2 地域企業と連携した共同教育の実施について	50
7.3 産学連携によるリーダー技術者養成講座「『デジタル×ものづくり』カレッジ」の企画・運営	50
7.4 産学連携による社会人向け夜間講座「製造技術者育成講座（基礎）」の開講	50
7.5 産学連携による社会人向け研究会「IoT研究会」の企画・運営	51

7.6	産官学金連携会議「豊田市ものづくり人材育成官民協議会」の設立	51
8.	学校運営に関すること	52
8.1	本科入学者の質・数の確保（担当：教務主事）	52
8.2	専攻科入学者の質・数の確保（担当：専攻科長）	53
8.3	教員の質の確保	54
8.4	予算・決算について（担当：総務課課長補佐（財務担当））	56
9.	施設整備に関すること（担当：施設環境整備委員長）	59
9.1	現状	59
9.2	改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定	61
10.	自己点検・評価体制に関すること（担当：総務主事）	62

1. 教育理念・目標及び三つのポリシーに関すること

1.1 教育理念・目標について（担当：総務主事）

1) 現状

①昨年度策定された「高専機構・第4期中期計画」との整合性、②本校を取り巻く環境の変化、③地域社会の要望などを総合的に考慮した上で、現時点での「教育理念」の見直しは必要ないと判断した。「教育目標」は、来年度の JABEE 受審に向けて見直しを図る。

1) 現状

定期的（5年 or 10年）に機構の中期計画及び年度計画の決定等に基づいて再検討する（2020年から適用）。2015年度に教育理念については見直しをした。教育目標は、JABEE 受審に応じて見直しを図る。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

定期的（5年 or 10年）に機構の中期計画及び年度計画の決定等に基づいて再検討する（2020年から適用）。2015年度に教育理念については見直しをした。教育目標は、JABEE 受審に応じて見直しを図る。

1.2 三つのポリシーについて（担当：教務主事）

令和2年度中は教務委員会（R2/7/8、R2/8/5、R2/9/9、R2/10/7、R2/11/4、R2/12/16、R3/1/20）で検討されており、以下の三つのポリシーの内容となっている。

ディプロマ・ポリシー

本科（卒業認定の方針）

本科では、ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、学科ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで卒業が認定されます。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、卒業認定の要件を満たした者には、卒業判定会議の議を経て、校長から卒業が認定されます。

機械工学科

機械工学科における以下の学科教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が卒業認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

機械工学科専門科目及び国語、社会等の一般科目を体系的に学習し、ものづくりを実現可能とする能力を身につける。

(2) 基礎学力

数学、物理及び工学の基礎の修得と豊富な実験・実習体験を通じて、技術者の基礎となる活きた学力を身につける。

(3) 問題解決能力

実験や研究を通じて、自ら工学的な問題を設定でき、それを解決するための道筋を示し、実行することができる能力を身につける。

(4) コミュニケーション能力

実習・実験及び研究の成果を、理解しやすくレポートや報告書にまとめ、有意義な口頭発表を行うことができる能力を身につける。

(5) 技術者倫理

社会における技術者の役割や責任及び望ましいありかたを自ら求めることができる能力を身につける。

電気・電子システム工学科

電気・電子システム工学科における以下の学科教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が卒業認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

電気エネルギーの運用（発生、輸送、変換）に関する原理、エレクトロニクスの基礎、コンピュータによる情報・通信（情報の保持・変換・伝達）の概念を理解している技術者となる。

(2) 基礎学力

現象の観察・体験を出発点として学習することによる電気・電子回路及び電気磁気学等の基礎的内容を身につける。

(3) 問題解決能力

実験、研究の背景を意識し、実験データを科学的に分析でき、簡単な考察を加えることのできる技術者となる。

(4) コミュニケーション能力

得られた成果を短い報告書にまとめ、わかりやすく口頭発表する能力を身につける。

(5) 技術者倫理

社会における技術者の役割を意識した技術者となる。

情報工学科

情報工学科における以下の学科教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が卒業認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

ハードウェア・ソフトウェアに関する知識・技能を総合的に活用することにより、実現可能なコンピュータシステムを構築できる能力を身につける。

(2) 基礎学力

電気回路・デジタル回路・ソフトウェア開発などの実験・実習を通して、数理基礎をはじめとした情報工学における個々の基礎理論を深く理解するとともに、総合力を身につける。

(3) 問題解決能力

現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を的確に捉え、コンピュータを活用した問題解決手法を自ら立案・推進できる能力を身につける。

(4) コミュニケーション能力

実験・実習・研究の結果を、筋道を立てて報告書にまとめ、説得力のある口頭発表を行なう能力を身につける。

(5) 技術者倫理

情報モラルを有し、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を考慮できる技術者となる。

環境都市工学科

環境都市工学科における以下の学科教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が卒業認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

社会基盤への要求やその役割について理解し、さまざまな視野から構造物や社会システムについての設計・開発能力を身につける。

(2) 基礎学力

数学・自然科学の基礎や専門の基礎理論について理解し、実験実習を通して実践的技術者に欠かせない計測技術やデータ整理技術を習得する。

(3) 問題解決能力

防災、環境、社会資本整備等について自ら学習し、問題を提起する能力を身につける。また、問題の解決策を豊かな発想で創造できる技術者となる。

(4) コミュニケーション能力

実験や研究の成果について、記述力、口頭発表能力及び討議能力を培う。

(5) 技術者倫理

日本や世界の文化・歴史、技術が社会に与える影響を理解し、また、自らにも社会にも誠実であり、誇りと責任感を有する技術者となる。

建築学科

建築学科における以下の学科教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が卒業認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

与えられた設計条件の下で、様々な問題を解決し、バランス良くデザイン・提案する能力を身につける。

(2) 基礎学力

建築分野に必要な知識や技術を理解し、それらを応用して問題を解決する能力を身につける。

(3) 問題解決能力

建築図面を理解し、設計する能力を身につける。ドローイングやCADによる作図技術や模型製作技術を習得する。

(4) コミュニケーション能力

設計意図や内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力を身につける。

(5) 技術者倫理

日本や世界の文化や歴史を多面的に認識する能力を身につける。

専攻科（修了認定の方針）

専攻科では、ものづくり能力、基礎学力、問題解決能力、コミュニケーション能力、そして技術者倫理を兼ね備えた技術者となるために、専攻区分ごとに身につけるべき具体的学習成果を達成することで修了が認定されます。成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定され、修了認定の要件を満たしたものには、修了判定会議の議を経て、校長から修了が認定されます。

電子機械工学専攻（機械工学）

電子機械工学専攻（機械工学）における以下の教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が修了認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

社会の変化と要請を的確に捉え、機械工学分野の基礎的な知識を身につけ、ものづくりを多面的に認識し、最適なシステムを設計できる技術者となる。

(2) 基礎学力

本科で身につけた数学、物理及び工学基礎と豊富な実験・実習で得られた学力をさらに向上させた上で、機械工学の諸分野における問題に対して適切な結果を得ることのできる実践的な技術者となる。

(3) 問題解決能力

実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にした上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に課題解決できる深い教養と広い工学的知識を身につけた技術者となる。

(4) コミュニケーション能力

機械工学の諸分野における課題に対して得られた成果を、日本語による論理的な記述、口頭発表と討議、英語文献読解及び基本的な英会話ができる能力を有した技術者となる。

(5) 技術者倫理

技術が社会に及ぼす影響を考え、社会における役割と責任を理解した技術者となる。

電子機械工学専攻（電気・電子システム工学）

電子機械工学専攻（電気・電子システム工学）における以下の教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が修了認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

システムの安定性を考慮した制御法、及び電子デバイスの利用・計測技術及びスキルと安全意識を身につけた技術者となる。

(2) 基礎学力

本科で身につけた自然科学分野に対する理解力をさらに向上させた上で、電気・電子回路設計等の実践的知識を身につけた技術者となる。

(3) 問題解決能力

実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にさせた上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に研究できる基礎的な研究能力を持つ技術者となる。

(4) コミュニケーション能力

整った章立てに従い、わかりやすい日本語で報告書を作成でき、聴衆に合わせたわかりやすい日本語で口頭発表、質疑応答することができ、TOEIC450 点相当以上の英語運用能力を持った技術者となる。

(5) 技術者倫理

社会における技術者の役割と責任を理解した技術者となる。

情報科学専攻

情報科学専攻における以下の教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が修了認定の方針とされます。

(1) 「ハードウェア」・「ソフトウェア」・「数理基礎」に関する知識の修得

ハードウェア・ソフトウェアの知識及び技能を総合的に活用し、社会に役立つコンピュータシステムを構築できる実践的技術者となる。さらに、問題の本質を数理的にとらえ、コンピュータシステムを活用した問題解決方法を多角的視野から検討できる技術者となる。

(2) 実体験によって培われる実践力の養成

社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有し、コンピュータを用いた適切な解析・処理を提案できる創造的技術者となる。

(3) 世界的視野をもつ良識ある人間性の育成

日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができるとともに、英語によるコミュニケーション基礎能力を有する技術者となる。また、倫理観をもち、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を正しく認識できる技術者となる。

建設工学専攻（環境都市工学）

建設工学専攻（環境都市工学）における以下の教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が修了認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

社会の変化と要請を的確に捉え、人の生活を支える社会基盤の役割を熟知した上で、社会システムの技術的な検討や評価を行い、多角的視野からシステムや構造物の設計能力をもった実践的な技術者となる。

(2) 基礎学力

数学・自然科学・情報技術の基礎や工学の基礎理論に裏打ちされた専門知識を高度化し、実験実習を通して実践的技術者に欠かせない計測技術やデータ解析法を習得した技術者となる。

(3) 問題解決能力

防災、環境、社会資本整備等について自ら学習することで、問題を提起する能力や問題の解決策を豊かな発想で創造し、解決に向けて計画、実践できる能力を有した技術者となる。

(4) コミュニケーション能力

日本語による論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力を養成し、国際理解を深め、英語での記述、口頭発表及び討議のための基礎知識を有した技術者となる。

(5) 技術者倫理

日本や世界の文化や歴史をよく認識し、技術が社会に与える影響を理解し、自らにも社会にも誠実であり、誇りと責任感をもった技術者となる。

建設工学専攻（建築学）

建設工学専攻（建築学）における以下の教育目標を実現するため、学生が身につけるべき具体的学習成果の達成が修了認定の方針とされます。

(1) ものづくり能力

社会の変化・要請を捉え、問題を分析・抽出し、条件の下で問題を解決・提案する能力を有した技術者となる。

(2) 基礎学力

建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を有した技術者となる。

(3) 問題解決能力

報告書作成能力、図面判読能力及び、設計に関する説明力とプレゼンテーション力、討議能力を有した技術者となる。

(4) コミュニケーション能力

日本語による論理的な記述、口頭発表、討議能力、英語文献読解力と基本的英会話能力を有した技術者となる。

(5) 技術者倫理

建築技術が社会に与える影響を理解し、技術者としての誇りと責任感を有した技術者となる。

カリキュラム・ポリシー

本科の教育課程の編成方針

卒業認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように国立高等専門学校機構モデルコアカリキュラムに基づいた教育課程を編成し、「基礎的能力」「専門的能力」「分野横断的能力」を養う教育を実施します。

機械工学科

(1) 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成のため、機能性・安全性を追求する材料・材料力学分野、エネルギーの効率的利用を追求する熱・流体力学分野、ものづくりの手法を追求する工作・加工分野、高精度化を追求する計測・制御分野などの専門科目及び国語、社会などの一般科目をバランス良く編成する。

(2) 数学・自然科学の基礎や専門の基礎理論、計測技術やデータ整理技術を身につけるため、数学、物理、化学などの理系教養科目及び専門科目の実験と実習に多くの時間を充ち、「ものづくり」を通じて工学基礎理論の理解を促進するため、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成する。

(3) 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を養い、社会の求める実践的技術者を育成するため、卒業研究や創造総合実習、工学実験など、幅広い知識と技術、応用力が身につくように授業科目を編成する。

(4) 実験や研究の成果について、記述力、口頭発表能力及び討議能力を養成するため、その基礎となる国語、英語の他にも校外実習及び卒業研究等を通じてコミュニケーション能力などのスキルを持つため、授業科目を編成する。

(5) 日本や世界の文化・歴史を学び、技術が社会に与える影響を理解し、ものづくりにおける環境を考慮し、資源の無駄を無くす視点を持つとともに、技術者としての洞察力、協調性及び社会性を養成するため、一般科目と専門科目を編成する。

電気・電子システム工学科

(1) 電気エネルギーの運用（発生、輸送、変換）に関する原理、エレクトロニクスの基礎、コンピュータによる情報・通信（情報の保持・変換・伝達）の概念を理解している技術者を養成するために、エネルギー・制御系、エレクトロニクス系、情報通信系、専門関連・実務・実験系の科目群を編成する。また、それらの適切な利用のために、教養一般系の科目群を編成する。

(2) 現象の観察・体験を出発点として学習することによる電気・電子回路及び電気磁気学等の基礎的内容を身につけるために、専門関連・実務・実験系の科目群に関連させて、専門基礎系及び数学・自然科学系の科目群を編成する。

- (3) 実験、研究の背景を意識し、実験データを科学的に分析でき、簡単な考察を加えることのできる技術者を養成するために、研究・実験系の科目群を編成する。
- (4) 得られた成果を短い報告書にまとめ、わかりやすい日本語で口頭発表する能力を身につけるために、語学系、研究・実験系の科目群を編成する。
- (5) 社会における技術者の役割を意識した技術者を養成するために、教養一般系、実務系の科目群を編成する。

情報工学科

- (1) ハードウェア・ソフトウェアに関する知識・技能を総合的に活用することにより、実現可能なコンピュータシステムを構築し、社会的な問題を解決できる能力を身につけさせるため、プログラミング系及びハードウェア／ソフトウェア設計系の専門科目と、社会系の一般科目とを編成する。
- (2) 電気回路・デジタル回路・ソフトウェア開発などの実験・実習を通して、工学への応用に資することに配慮した数理基礎等の情報工学における個々の基礎理論を深く理解させるとともに、科学的な思考力及び工学的な総合力を身につけさせるため、数学、物理、化学などの数理系一般／専門科目と、情報工学に関する実験・実習系科目とを、学年ごとにバランス良く編成する。
- (3) 現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を的確に捉え、コンピュータを活用した問題解決手法を自ら立案・推進できる能力を身につけさせるため、情報工学ゼミ、エンジニアリングデザイン、卒業研究など、幅広い知識や技術、さらに応用力が身につくように専門科目を編成する。
- (4) 実験・実習・研究の結果を、筋道を立てて報告書にまとめ、日本語を使って説得力のある口頭発表を行うといった、技術者として必要な言語運用能力を身につけさせるため、その基礎となる国語系／英語系一般科目の他に、コンピュータリテラシ、実験・実習系科目、卒業研究などの専門科目を編成する。
- (5) 日本や世界の伝統的な物事への見方・考え方を身につけさせ、それらを基に、情報モラルを有し、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を考慮できるように、その基礎となる国語系／社会系一般科目の他に、情報基礎及び情報工学ゼミなどの専門科目を編成する。

環境都市工学科

- (1) 社会基盤への要求、役割について理解し、さまざまな視野から構造物や社会システムについての設計・開発能力を身につけるため、環境都市工学を構成する環境系、都市システム系、水理系、測量系、構造系、地盤系、材料系、設計製図などの専門科目及び国語、社会などの一般科目をバランス良く編成する。
- (2) 数学・自然科学の基礎や専門の基礎理論、計測技術やデータ整理技術を身につけるため、数学、物理、化学などの理系教養科目及び専門科目専門実験系科目を配置し、高学年に進むに従い環境都市工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成する。

(3)防災、環境、社会資本整備等について自ら学習し、問題を提起する能力や問題解決策を豊かな発想で創造するための能力を養うため、継続的なPBL型科目を編成する。また、卒業研究や環境都市応用工学など、幅広い知識と技術、応用力が身につくように授業科目を編成する。

(4)実験や研究の成果について、記述力、口頭発表能力及び討議能力を養成するため、その基礎となる国語、英語、卒業研究の他にもPBL型科目及び環境都市工学創造ゼミなどの授業科目を編成する。

(5)日本や世界の文化・歴史を学び、技術が社会に与える影響を理解し、自らにも社会にも誠実であり、誇りと責任感を身につけた技術者となるため、地理、歴史などの社会系の科目を編成する。

建築学科

(1)社会の変化・要請を捉えて、問題を分析・抽出し、様々な条件の下で、専門知識や技術を用いて、問題を解決するもしくは新たな提案を発する能力を修得するため、建築学を構成する計画系、デザイン系、環境系、設備系、構造系、材料系、設計製図などの専門科目及び国語、社会などの一般科目をバランス良く編成する。

(2)数学・自然科学などの基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得するために、数学、物理、化学などの理系教養科目及び専門科目、専門実験系科目を配置し、専門科目は建築士の資格に対応できるように配慮して授業科目を編成する。

(3)図面判断能力及び設計意図・内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力や討議能力を身につけるために、建築設計製図、建築CAD、技術表現法などの授業科目を1年次から編成する。

(4)実験や研究の成果について、記述力、口頭発表能力及び討議能力を養成するため、その基礎となる国語、英語の他にも、実験系科目、卒業研究、建築学ゼミナールなどの授業科目を編成する。

(5)日本や世界の文化・歴史を学び、技術が社会に与える影響を理解し、自らにも社会にも誠実であり、誇りと責任感を有する技術者を養成するため、社会系科目、建築史、都市計画などの授業科目を編成する。

単位修得の認定

これらの科目群に係る単位修得の認定の可否は、定期試験、中間試験、小テスト、課題等の評価結果を総合評価することで行います。さらに、各科目の概要、評価方法、授業内容、達成度目標などについては、講義概要集（Webシラバス）で公開されており、これに従って単位修得の認定がなされます。

専攻科の教育課程の編成方針

修了認定の方針を具現化するために、教育目標に沿って、以下に示すように教育課程を編成し、教育を実施します。

電子機械工学専攻（機械工学）

(1) 社会の変化と要請を的確に捉え、機械工学分野の基礎的な知識を身につけ、ものづくりを多面的に認識し、最適なシステムを設計できる技術者を養成するために、専門科目群を編成する。

(2) 本科で身につけた数学、物理及び工学基礎と豊富な実験・実習で得られた学力をさらに向上させ、機械工学の諸分野における問題に対して適切な結果を得ることのできる実践的な技術者を養成するために、専門科目関連科目群ならびに専門科目群を編成する。

(3) 実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にした上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に課題解決できる深い教養と広い工学的知識を身につけた技術者を養成するために基礎分野科目群、複数の工学分野の実験・研究系専門科目群を編成する。

(4) 機械工学の諸分野における課題に対して得られた成果を、日本語による論理的な記述、口頭発表と討議、英語文献読解及び基本的な英会話ができる能力を有した技術者を養成するために語学科目群と実験・研究系専門科目群を編成する。

(5) 技術が社会に及ぼす影響を考え、社会における役割と責任を理解した技術者を養成するために人文社会系ならびに専門科目群を編成する。

電子機械工学専攻（電気・電子システム工学）

(1) システムの安定性を考慮した制御法及び電子デバイスの利用・計測技術を身につけた技術者を養成するために専門科目群を編成し、それらのスキルと安全意識を身につけた技術者を養成するために実習科目群を編成する。

(2) 本科で身につけた自然科学分野に対する理解力をさらに向上させるために、基礎分野科目群を編成する。また、電気・電子回路設計等の実践的知識を身につけた技術者を養成するために専門科目群を編成する。

(3) 実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にさせた上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に研究できる基礎的な研究能力を持つ技術者を養成するために、実践的科目群を編成する。

(4) 整った章立てに従い、わかりやすい日本語で報告書を作成でき、聴衆に合わせたわかりやすい日本語で口頭発表、質疑応答することができる技術者を養成するために、研究・実験科目群を編成する。また、TOEIC450点相当以上の英語運用能力を持った技術者を養成するために語学科目群を編成する。

(5) 社会における技術者の役割と責任を理解した技術者を養成するために教養一般系、実務系の科目群を編成する。

情報科学専攻

(1) 「ハードウェア」・「ソフトウェア」・「数理基礎」に関する知識の修得カリキュラムの科目を大きく「ハードウェア」・「ソフトウェア」・「数理基礎」の三分野に分け、基礎的な数学や自然科学に関する知識、それぞれの分野の専門技術に関する知識の獲得を目標として授業を編成している。「組込みシステム特論」「電子工学」を

通じて、ハードウェアの基本動作を理論面から解析できるとともに、ソフトウェア的手法を利用して組み込みシステムを設計するための専門知識を身につける (A1)。「ソフトウェア工学」「情報数学特論Ⅱ」「情報システム工学」「コンパイラ」を通じて、ソフトウェア開発において、数理的理論に基づくスマートな設計ができるとともに、ハードウェアの基本動作を意識した設計ができるようになるための専門知識を身につける (A2)。「デジタル信号処理」「ネットワークセキュリティ」を通じて、コンピュータネットワークの動作を通信理論の観点から数理的に解析するための専門知識を身につける (A3)。「応用情報システム」「知識情報工学」「パターン情報処理」「解析力学」「生物化学」「線形代数学」「原子物理学」「応用解析学Ⅰ」「健康科学特論」「生体情報論」「初等代数」「統計熱力学」「応用解析学Ⅱ」「信頼性工学」「情報数学特論Ⅰ」を通じて、現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を数理的に捉え、コンピュータシステムを応用した問題解決方法を多角的視野から検討するための素養を身につける (A4)。

(2) 実体験によって培われる実践力の養成

ものづくりの風土がある地元・豊田市にキャンパスを持ち、学校創立以来、地元企業の工場見学・地元企業での校外実習での「実体験」を通じて地元企業と密接な関係を保ってきた本校の伝統を考慮した授業を編成している。「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」「インターンシップ」を通じて、与えられた問題を分析・モデル化し、解決方法を立案し、その有効性をコンピュータや測定装置を使って確かめるための実践力を身につける (B1)。「情報科学実験」「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」を通じて問題を的確に把握し、問題解決手法を自ら立案・推進するための豊かな体験を培い、基礎理論の深い理解との融合を図る (B2)。「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」「情報科学実験」を通じて社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を養成する (B3)。「情報科学実験」「インターンシップ」を通じて、さまざまなデータに対し、コンピュータを用いて実際に解析・処理を行うための実践力を身につける (B4)。

(3) 世界的視野をもつ良識ある人間性の育成

人文社会科学に関する知識の修得を通して、倫理観や地球的視点に立った配慮、そのために必要な基礎的な言語能力の獲得を目標として授業を編成している。「技術者倫理」「コンピュータシステム」「インターンシップ」を通じて、自らが作ったものが社会に与える影響を正しく認識し、技術者としてふさわしい倫理観を涵養する (C1)。「歴史学」「地域と産業」「日本の言葉と文化」「技術史」「工業デザイン論」を通じて、世界の文化・歴史を理解し、人間に対する配慮を怠らない人間性を培う (C2)。「総合英語Ⅰ」「技術英語」「上級英語表現」「総合英語Ⅱ」を通じて英語によるコミュニケーションを行うための基礎能力を身につける (C3)。「情報科学実験」「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」「インターンシップ」では口頭発表によるプレゼンテーションや、筋道を立てて報告書を書く能力を養う (C4)。

建設工学専攻（環境都市工学）

- (1) 社会基盤への要求、役割について理解するため、社会系科目を編成するとともに、多角的視野から社会システムや構造物の設計能力を身につけるため、都市システム系、地盤防災系の科目を編成する。
- (2) 数学や自然科学、情報技術の基礎を身につけるため、数学、物理、化学などの理系教養科目やコンピュータを用いた設計製図などの科目を編成する。また、専門の基礎理論や計測技術、データ解析法を身につけるため、環境都市工学の主要分野である環境系、水工系、構造系、地盤系、材料系などの専門科目及び建設工学創造実験といった実験科目を編成する。
- (3) 防災、環境、社会資本整備について自ら学習し、問題を提起する能力や様々な問題を豊かな発想で解決に向けて計画、実践する能力を養うため、特別研究や都市地域解析及び設計演習といった幅広い知識と技術、応用力が身につくための授業科目を編成する。
- (4) 日本語や英語による論理的な記述力及び口頭発表能力、討議能力を身につけることを目的として、国語や英語による高度なコミュニケーション能力を養成するための人文・社会系科目を編成し、その実践力を養うために特別研究などの科目を編成する。
- (5) 日本や世界の文化・歴史を学び、技術が社会に与える影響を理解し、自らにも社会にも誠実であり、誇りと責任感を身につけた技術者となるため、歴史や技術史、技術者倫理などの科目を編成する。

建設工学専攻（建築学）

- (1) 社会の変化・要請を捉え、問題を分析・抽出し、条件の下で問題を解決・提案する能力を涵養するため、協同して問題を解決する訓練ができるように科目を編成する。
- (2) 多様な工学知識やそれを支える数学・自然科学の知識を修得できること及び専門科目の基礎知識を基礎として建築の応用知識を修得できるように授業科目を編成する。
- (3) 協同作業を通じて、プレゼンテーション力や討議能力、論理的判断応力や報告書作成能力を向上できるように授業科目を編成する。
- (4) 実験や研究を通じて、語学力、記述力、口頭発表能力、討議能力を向上できるように授業科目を編成する。
- (5) 倫理感を持って仕事をするための論理的判断力を涵養できるように授業科目を編成する。

単位修得の認定

これらの科目群に係る単位修得の認定の可否は、定期試験、中間試験、小テスト、課題等の評価結果を総合評価することで行います。さらに、各科目の概要、評価方法、授業内容、達成度目標などについては、講義概要集（Web シラバス）で公開されており、これに従って単位修得の認定がなされます。

アドミッション・ポリシー

本科の入学受入れ方針

本校では社会の要請にこたえる実践的技術者を養成するため知識や技能に優れ、思考力や判断力を有し、優れた表現力で多様な人々と協働できる主体性を持った学生を受け入れるため次のようなアドミッション・ポリシーを定めます。

本科第1学年への入学者受入れ方針

[1] 求める学生像

本科においては、以下の学生を受け入れます。

1. 一般教育、専門教育を十分理解できる能力を有する人
2. 特に、数学と理科に優れた能力を有する人
推薦選抜では、上記に加え以下に示す多様な学生も受け入れます。
3. ものづくりに興味を抱く人
4. 生徒会、スポーツ、ボランティア等の活動や海外生活などの経験を通して育まれたリーダーシップ等、さまざまな能力を有する人

[2] 入学者選抜の基本方針

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するために、異なる選抜方法と多面的な評価方法により入学希望者を選抜します。

[一般選抜（学力検査等による選抜）]

高等学校受検資格を有するすべての者を対象とした一般選抜（学力検査）を行います。まず、本校で学習するために必要な基礎的・汎用的能力を有しているかを調査書によって評価します。また、一般教育、専門教育を十分理解できる能力を有しているかを判断するために、学力検査によって数学、理科、英語、国語及び社会の基礎学力を評価します。

[推薦選抜（面接等による選抜）]

出願資格を満たし、各中学校から推薦されることを前提とします。

まず、本校で学習するために必要な基礎的・汎用的能力を有しているかを調査書によって評価します。また、リーダーシップ等のさまざまな能力を有しているかを推薦書によって評価します。さらに、明確な志望動機、ものづくりに対する興味や入学後の意欲等を有しているかを面接によって評価します。

本科第3学年への外国人留学生受入れ方針（外国人留学生特別入学試験）

[1] 求める学生像（高専機構）

1. ものづくりに興味をいだき、社会への応用を考える人
2. 数学と理科に優れ、実験・実習に励み基礎学力をつける人
3. 一般教育、専門教育を理解し、自主的に努力する人
4. 国際的に通用するコミュニケーション能力習得に努める人
5. 世界の文化・歴史を踏まえ技術者の責任を自覚する人

[2] 入学者選抜の基本方針

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するために、多面的な評価方法により入学希望者を選抜します。

外国人留学生を対象とした特別入試を行います。

まず、本校の第2学年までの一般教育、専門教育、日本語を十分理解できる能力を有しているかを判断するために、筆記試験によって数学、理科、日本語の学力を評価します。英語の能力については、TOEIC等のスコアによって評価します。また、日本語コミュニケーション能力、ものづくりに対する興味や入学後の意欲等を有しているかを面接によって評価します。

上記評価以外にも、定員、寮の受入れ体制等の面から総合的に判断します。

本科第4学年への入学者受入れ方針（編入学試験）

[1] 求める学生像

1. 本校の第3学年までの一般教育、専門教育などの教育課程を修了したと同等の能力を有する人
2. 本校の教育目標を理解し、入学後、それに向かって鋭意努力する意志を有する人

[2] 入学者選抜の基本方針

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するために、多面的な評価方法により入学希望者を選抜します。

大学受験資格を有するすべての者を対象とした一般入試を行います。

まず、本校で学習するために必要な基礎的・汎用的能力を有しているかを調査書によって評価します。また、本校の第3学年までの一般教育、専門教育を十分理解できる能力を有しているかを判断するために、筆記試験によって国語、数学、英語及び専門科目（または物理）の学力を評価します。英語の能力については、TOEICスコアまたは英語検定の級によって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを面接によって評価します。

専攻科の入学者受入れ方針

[1] 求める学生像

専攻科においては、以下の学生を受け入れます。

1. 自然科学や工学の基礎を身につけており、先端的技術を学ぶ意欲のある人
2. 自主性と創造性を発揮し、さまざまな問題を解決する意欲のある人
3. 国際的コミュニケーション能力の基礎を身につけている人

[2] 入学者選抜の基本方針

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するために、異なる入試方法と多面的な評価方法により入学希望者を選抜します。

学力試験による選抜（前期・後期）

出願資格を有するすべての者を対象とした学力試験による選抜を行います。

まず、本校で学習するために必要な能力を有しているかを調査書によって評価します。次に、一般教育、専門教育を十分理解できる能力を有しているかを判断するために、学力試験によって数学及び専門科目の基礎学力を評価します。英語の能力については、TOEIC スコアによって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを面接によって評価します。

推薦による選抜

出願資格を有し、高等専門学校長から推薦されることを前提とします。

まず、本校で学習するために必要な能力を有しているかを調査書によって評価します。次に、明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを面接によって評価します。

社会人特別選抜

出願資格を有していることを前提とします。

まず、本校で学習するために必要な能力を有しているかを調査書によって評価します。次に、論述試験及び面接によって専門に関する基礎学力を評価します。英語の能力については、TOEIC スコアによって評価します。また、明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを面接によって評価します

2) 改善の必要性・今後の予定

令和3年度の新1年生から新しいカリキュラムが始まったばかりであるので、新しいカリキュラムの成果が表れるまでは、3つのポリシーを大きく変えることはできるだけ避けたいが、令和3年度中に予定されている機関別認証評価や JABEE 受審の結果、必要であれば改善や見直しをおこなう。

2. 教育活動に関すること

2.1 機械工学科（担当：機械工学科長）

1) 現状

機械工学科の学習教育目標は、本校の5つの教育目標を達成できるように、(A)社会との関連、(B)基礎学力、(C)問題解決能力、(D)コミュニケーション能力、および(E)責任・倫理の5つのキーワードで示される分野において、その教育内容にふさわしい科目を配当し、成績を評価することで達成度を確認している。現在、機械工学科で使用している目標達成度自己評価シートを表2.1-1に示す。

機械工学科では、JABEE受審における指摘をきっかけに、平成26年度から今後の教育改善にも役立つものとするため、修得できたか否かだけでなく、本校の成績評価ABCも記載でき、細かな自己評価ができる形式に変更した。

まず、本科卒業生に対して考察を試みる。卒業学生数は36名であり、すべての学生の動向を把握するため、この中からGPAで判定したクラス順位で最上位から最下位までほぼ均等に7名をピックアップし、評価シートを用いてデータ化した。とりまとめた結果を表2.1-2に示す。機械工学科の5つの教育目標はそれぞれさらに細分化して設定されているが、大局的な把握をするため、目標毎にまとめて評価することができる。表の教育目標欄の括弧内の数値が必修科目数である。表の左側で、教育目標毎に学生が修得した科目数の年毎の積み上げの様子がわかる。一方、表の右側で、修得できた科目の成績はどうであったのかがわかる。

表の左側のデータから、おおむね教育目標の分野の偏りもなく、成績の順位に関わらず、修得するペースも無理なくバランス良く修得できている様子が見て取れる。これによって、機械工学科のカリキュラム配置がバランスよく配置され、教育目標に沿う様に教育できていると判断できる。右側の成績内容から、成績の上位者は修得した科目の評価が高いことがわかるが、中位から低位の学生に比べ修得単位数に差はみられない。一方、中位から低位の学生は、もちろん必要科目数は修得しているが、B評価、C評価の科目数が上位の学生に比べ多くなっていることがわかる。また、教育目標(B)、(C)において上位の学生に比べ低位の学生の修得単位数がわずかに少なく、これらの結果は、今後の教育改善活動の参考になると考える。

次に、専攻科学生卒業生の評価を試みる。表2.1-3は、令和2年度専攻科卒業生6名（他高専卒業生1名除く）の評価シートから、本科と同様にしてデータ化したものである。なお、評価・分析しやすいように本科と同様GPAによる成績順に配置してある。本科と同様、専攻科学生においても必要な科目の修得状況は、分野によって特別の偏りもなく、学年進行によって目標達成に向かってバランス良く修得できている様子が見て取れる。また、本科の場合と同様以上に、専攻科学生においても成績順に関係なく修得科目数の違いがほとんど見られない。さらに修得した成績評価のABCの割合からも、専攻科学生間の学力差が本科ほど大きくないこと、および本科では上位～中位相当の学力レベルであることもわかる。ただし、これらの結果から特別な問題点は見つけられない。しばらくは経年変化を見て、評価シートからどのような情報が読み取れるのかの分析方法を含めて、問題点を探っていきたい。

表 2.1-1 機械工学科の目標達成度自己評価シート

JABEE機械工学プログラム受講生による目標達成度自己評価シート

出席番号	中4	中5	専1	専2
------	----	----	----	----

学期末の成績通知の際に、下記の記入例にしたがって記載し、修了要件を満たした場合には「修了要件」欄の「合」に○を記入すること

氏名

記入例	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										経済半年	評価	修了要件	評価の景観									
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j				中4	中5	専1	専2						
(1)コミュニケーション能力 (1)適切な日本語を英語や文章で転写できるとともに、英語による基礎的コミュニケーションができる。 (2)口頭、文書、グラフ、図を用いて自分の考えを効果的に伝えることができる。	日本語基礎英語IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	人文科学 社会科学 理学系科目 目録から 科目 番号	A:	6	7	8	9	10	-1	-2	0	1
	日本語IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	11	12	13	14	15				
	日本語IIB	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	日本語IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	11	12	13	14	15				
	日本語IIB	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	6	7	8	9	10				
	日本語IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	11	12	13	14	15				
	日本語IIB	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	6	7	8	9	10				
	日本語IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	11	12	13	14	15				
	日本語IIB	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	日本語IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	11	12	13	14	15				
(A)社会との関連 (A1) 社会の工学的理解を記録でき、それが機械工学とどのように関連しているかを理解している。 (A2) 技術が、社会・文化との関わりの中でどのように発展してきたか理解している。	校外実習	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	2科目 合・否	A:	1	2	3	4	5				
	インターンシップ	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	企業現場体験	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	技術者倫理	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
	技術者	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	技術者	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	技術者	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
	技術者	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	技術者	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	技術者	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
(B)基礎学力 (B1) 豊富な実験・実習に裏付けられた基礎学力を身につける。 (B2-1) 数学に関する知識とその工学的応用力の修得。 (B2-2) 物理に関する知識とその工学的応用力の修得。 (B2-3) 複素技術に関する知識とその工学的応用力の修得。	工学実験A	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	3科目 合・否	A:	1	2	3	4	5				
	工学実験B	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	電子機械工学特別実験	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	解析学I	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
	解析学II	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	6	7	8	9	10				
	数学特論A	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	11	12	13	14	15				
	数学特論B	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	16	17	18	19	20				
	微分積分	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	線形代数	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	応用統計学I	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	11	12	13	14	15				
(C)問題解決能力 (C1) 問題を捉え、それについて適切な実験を計画し、必要な結果を得ることができる。 (C2-1) 「材料と構造」に関する専門知識の修得。 (C2-2) 「運動と振動」に関する専門知識の修得。 (C2-3) 「エネルギーと流れ」に関する専門知識の修得。 (C2-4) 「健康と計測・制御」に関する専門知識の修得。 (C2-5) 「機械と設計・生産・システム」に関する専門知識の修得。	実験力学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	3科目 合・否	A:	1	2	3	4	5				
	特別実習I	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	特別実習II	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	材料力学IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	6	7	8	9	10				
	材料力学IIB	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	11	12	13	14	15				
	材料力学III	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	塑性加工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
	応用材料学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	6	7	8	9	10				
	材料力学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	11	12	13	14	15				
	機械振動学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
(C2-2) 「運動と振動」に関する専門知識の修得	熱力学I	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	1科目 合・否	A:	1	2	3	4	5				
	熱力学II	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	水力学I	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	水力学II	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	6	7	8	9	10				
	水力学III	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	11	12	13	14	15				
	流体力学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	制御工学A	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
	制御工学B	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	6	7	8	9	10				
	制御工学C	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	11	12	13	14	15				
	制御工学D	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	1	2	3	4	5				
(C2-4) 「健康と計測・制御」に関する専門知識の修得	健康工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	2科目 合・否	A:	6	7	8	9	10				
	パターン健康処理	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	11	12	13	14	15				
	健康システム工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	11	12	13	14	15				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	6	7	8	9	10				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	11	12	13	14	15				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	6	7	8	9	10				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	11	12	13	14	15				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	生体工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	11	12	13	14	15				
(C2-5) 「機械と設計・生産・システム」に関する専門知識の修得	機械設計製図IIA	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C	5科目 合・否	A:	1	2	3	4	5				
	機械設計製図IIB	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	6	7	8	9	10				
	機械設計製図IV	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	11	12	13	14	15				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	16	17	18	19	20				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	6	7	8	9	10				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	11	12	13	14	15				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		B:	16	17	18	19	20				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5				
	生産工学	○										中4・中5・専1・専2	A・B・C		A:	6	7	8	9	10				

(D) コミュニケーション能力	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										修得学年	評価	修了要件	評価の累積					本4	本5	専1	専2			
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	1				2	3	4	5								
(D1) 適切な日本語を会話や文章で駆使できるとともに、英語による基礎的コミュニケーションができる。	科学英語基礎ⅡA	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C	人文科学 社会科学 語学系科 目群から 12科目	A:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	科学英語基礎ⅡB	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10					
	英語ⅠA	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15					
	英語ⅠB	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5					
	英語ⅡA	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10					
	英語ⅡB	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15					
	英語Ⅲ	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5					
	日本語表現	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10					
	※総合英語Ⅰ	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15					
	※総合英語Ⅱ	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C		6科目 合・否	1	2	3	4	5					
	※技術英語	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10					
	※上級英語表現	○											本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15					
(D2) 口頭、文書、グラフ、図を用いて自分の考えを効果的に伝えることができる。	◆工学実験A			×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	A:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	◆工学実験B			×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10						
	◆卒業研究			×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15						
	※電子機械工学特別実験			×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5						
	※特別研究Ⅰ			×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10						
	※特別研究Ⅱ			×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15						
				×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5						
				×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10						
				×		×		×		×		本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15						

(E) 責任・倫理	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										修得学年	評価	修了要件	評価の累積					本4	本5	専1	専2		
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	1				2	3	4	5							
(E1) 世界の中で、日本の文化が自らのもの見方の素地をなしていることを認識している。	日本語表現	×										本4・本5・専1・専2	A・B・C	人文科学 社会科学 語学系科 目群から 12科目	A:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	ドイツ語A	○										本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10					
	ドイツ語B	○										本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15					
	歴史特論Ⅰ	○										本4・本5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5					
	歴史特論Ⅱ	○									本4・本5・専1・専2	A・B・C	6			7	8	9	10						
	人文科学特論Ⅰ	○									本4・本5・専1・専2	A・B・C	11			12	13	14	15						
	人文科学特論Ⅱ	○									本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:		1	2	3	4	5						
	※技術史	○									本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10						
	※歴史学	○									本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15						
	※日本の言葉と文化	○									本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否		1	2	3	4	5						
	※地域と産業	○								本4・本5・専1・専2	A・B・C	6			7	8	9	10							
	社会学Ⅰ	○								本4・本5・専1・専2	A・B・C	11			12	13	14	15							
社会学Ⅱ	○								本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5									
現代社会学Ⅰ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6		7	8	9	10										
現代社会学Ⅱ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C	11		12	13	14	15										
法学Ⅰ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	1	2	3	4	5										
法学Ⅱ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
経済学Ⅰ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
経済学Ⅱ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5										
社会学特論Ⅰ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
社会学特論Ⅱ	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
※技術者倫理	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	1	2	3	4	5										
※健康科学特論	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										

人文科学・社会科学・語学系科目群	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										修得学年	評価	修了要件	評価の累積					本4	本5	専1	専2		
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	1				2	3	4	5							
(D1) 適切な日本語を会話や文章で駆使できるとともに、英語による基礎的コミュニケーションができる。	科学英語基礎ⅡA	×										本4・本5・専1・専2	A・B・C	12科目 合・否	A:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	科学英語基礎ⅡB	×										本4・本5・専1・専2	A・B・C			6	7	8	9	10					
	英語ⅠA	×										本4・本5・専1・専2	A・B・C			11	12	13	14	15					
	英語ⅠB	×										本4・本5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5					
	英語ⅡA	×									本4・本5・専1・専2	A・B・C	6			7	8	9	10						
	英語ⅡB	×									本4・本5・専1・専2	A・B・C	11			12	13	14	15						
	英語Ⅲ	×										本4・本5・専1・専2	A・B・C		C:	1	2	3	4	5					
	日本語表現	×									本4・本5・専1・専2	A・B・C	6			7	8	9	10						
	文学特論	×									本4・本5・専1・専2	A・B・C	11			12	13	14	15						
	ドイツ語A	×									本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否		1	2	3	4	5						
	ドイツ語B	×								本4・本5・専1・専2	A・B・C	6			7	8	9	10							
	哲学Ⅰ	×								本4・本5・専1・専2	A・B・C	11			12	13	14	15							
哲学Ⅱ	×								本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5									
歴史特論Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6		7	8	9	10										
歴史特論Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	11		12	13	14	15										
現代社会学Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	1	2	3	4	5										
現代社会学Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
法学Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
法学Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5										
経済学Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
経済学Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
社会学特論Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	1	2	3	4	5										
社会学特論Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
人文科学特論Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
人文科学特論Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5										
※総合英語Ⅰ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
※総合英語Ⅱ	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
※技術英語	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	1	2	3	4	5										
※上級英語表現	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
※技術史	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
※歴史学	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5										
※日本の言葉と文化	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
※地域と産業	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										
※技術者倫理	×							本4・本5・専1・専2	A・B・C	6科目 合・否	1	2	3	4	5										
※健康科学特論	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		6	7	8	9	10										
	○							本4・本5・専1・専2	A・B・C		11	12	13	14	15										

その他	授業科目	JABEE学習・教育到達目標										修得学年	評価	修了要件	評価の累積					本4	本5	専1	専2
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	1				2	3	4	5					
(解新学Aまたは応用解新学Ⅰのいずれかの単位を習得していること)	解新学A			×		×						本4・本5・専1・専2	A・B・C	1科目 合・否	A:	1	2	3	4	5			
	※応用解新学Ⅰ			×		×						本4・本5・専1・専2	A・B・C		B:	1	2	3	4	5			
				×		×						本4・本5・専1・専2	A・B・C	C:	1	2	3	4	5				

※：専攻科目、◆：JABEE必修科目

JABEE学習・教育到達目標における開講科目数に対する修得科目数の割合（専攻科修了時に上記表の「●」の数を◎欄にそれぞれ記入して◇欄に計算結果を記入のこと）

- (a) 地球的観点から多面的に物事を考える能力とその素養 ◎ ÷ 33 × 100 = ◇ %
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解 ◎ ÷ 14 × 100 = ◇ %
- (c) 数学および自然科学に関する知識とそれらを用いる能力 ◎ ÷ 27 × 100 = ◇ %
- (d) 該当分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力 ◎ ÷ 70 × 100 = ◇ %
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 ◎ ÷ 4 × 100 = ◇ %
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 ◎ ÷ 24 × 100 = ◇ %
- (g) 自主的、継続的に学習する能力 ◎ ÷ 4 × 100 = ◇ %
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 ◎ ÷ 12 × 100 = ◇ %
- (i) チームで仕事をするための能力 ◎ ÷ 3 × 100 = ◇ %

表 2.1-2 機械工学科本科卒業生の成績まとめ

R2年度機械工学科本科卒業生 教育目標別成績(成績順に均等に代表選定)

教育目標	学生	修得学年				修得 科目数	達成度 %	評価		
		本4	本5	専1	専2			A	B	C
A 社会との 関連 (2科目)	a	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	b	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	c	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	d	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	e	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	f	1	0	-	-	1	50	1	0	0
	g	1	0	-	-	1	50	1	0	0
B 基礎学力 (16科目)	a	7	1	-	-	8	50	5	3	0
	b	7	0	-	-	7	44	5	1	1
	c	7	1	-	-	8	50	4	2	2
	d	6	1	-	-	7	44	5	2	0
	e	6	1	-	-	7	44	3	4	0
	f	6	1	-	-	7	44	1	4	2
	g	6	0	-	-	6	38	0	3	3
C 問題解決 能力 (16科目)	a	12	9	-	-	21	131	20	1	0
	b	11	9	-	-	20	125	17	1	2
	c	12	10	-	-	22	138	17	3	2
	d	9	7	-	-	16	100	8	5	3
	e	10	6	-	-	16	100	5	5	6
	f	9	6	-	-	15	94	5	3	7
	g	9	6	-	-	15	94	0	5	10
D コミュニケー ション能力 (18科目)	a	8	2	-	-	10	56	9	1	0
	b	9	2	-	-	11	61	9	2	0
	c	9	2	-	-	11	61	7	1	3
	d	8	2	-	-	10	56	5	4	1
	e	8	2	-	-	10	56	4	6	0
	f	8	2	-	-	10	56	5	5	0
	g	10	2	-	-	12	67	1	7	4
E 責任・倫理 (12科目)	a	6	1	-	-	7	58	7	0	0
	b	7	1	-	-	8	67	7	1	0
	c	6	1	-	-	7	58	4	1	2
	d	6	1	-	-	7	58	3	3	1
	e	5	1	-	-	6	50	3	3	0
	f	6	1	-	-	7	58	3	4	0
	g	7	1	-	-	8	67	2	4	2

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

新しい成績評価シートを使用し始めて7年目である。現在のところ特に目立った問題点は見当たらないが、しばらくデータをとり続け、経年変化に注目して、改善点を見つけていきたい。また、学生によって履修する単位にバラツキがあり、履修の有無についてヒアリング等を行い、学科カリキュラム編成や授業内容に反映していきたい。

表 2.1-3 専攻科（電子機械工学専攻修了生）の成績まとめ

R2年度専攻科電子機械工学専攻修了生（機械工学プログラム）教育目標別成績（成績順）

教育目標	学生	修得学年				修得 科目数	達成度 %	評価		
		本4	本5	専1	専2			A	B	C
A 社会との 関連 (2科目)	a	1	0	1	0	2	100	1	1	0
	b	1	0	1	0	2	100	1	1	0
	c	1	0	1	0	2	100	1	0	1
	d	1	0	2	0	3	150	2	1	0
	e	1	0	1	1	3	150	2	1	0
	f	1	0	1	1	3	150	2	0	1
B 基礎学力 (16科目)	a	8	2	5	6	21	131	21	0	0
	b	8	2	5	5	20	125	13	5	2
	c	8	2	5	5	20	125	13	6	1
	d	8	1	5	6	20	125	10	8	2
	e	8	2	5	5	20	125	10	9	1
	f	8	1	4	6	19	119	8	7	4
C 問題解決 能力 (16科目)	a	12	10	7	7	36	225	32	2	2
	b	11	6	4	3	24	150	12	8	4
	c	12	10	6	3	31	194	24	4	3
	d	11	6	5	5	27	169	13	11	3
	e	12	10	6	7	35	219	18	12	5
	f	11	9	6	4	30	188	11	8	11
D コミュニケー ション能力 (18科目)	a	9	3	7	5	24	133	23	1	0
	b	9	2	7	4	22	122	19	3	0
	c	7	5	7	4	23	128	19	3	1
	d	9	3	7	4	23	128	19	3	1
	e	9	3	7	4	23	128	16	7	0
	f	9	4	6	5	24	133	18	4	2
E 責任・倫理 (12科目)	a	7	2	6	3	18	150	17	1	0
	b	7	1	6	2	16	133	15	1	0
	c	5	4	6	2	17	142	15	1	1
	d	7	2	6	2	17	142	15	1	1
	e	7	2	6	2	17	142	11	6	0
	f	7	3	5	3	18	150	14	2	2

2.2 電気・電子システム工学科（担当：電気・電子システム工学科長）

1) 現状

電気・電子システム工学科の JABEE「学習・教育到達目標と評価方法及び評価基準」を用いて、5年卒業時達成度目標を表 2.2 のように設定して評価した結果、令和二年度は同表のようになった。令和二年度の卒業生は 41 名である。全体の卒業時達成度（総合）は、100%となった。達成度の数値目標は72%とおき、目標の本科達成度はそれを大幅に上回り、目標は達成できたと考える。

令和二年度の電子機械工学専攻電気系学生の達成度についても全員目標を達成し、JABEE 修了生となっている。

表 2. 2 学習・教育到達目標及び達成度評価の結果

5年卒業時達成度目標	達成度 (%)	達成度数値目標 (%)
A1 または A2 のどちらかを達成している。	100.0	50.0
A3 ～A6 をすべて達成している。	100.0	100.0
B1 または B2 のどちらかを達成している。	100.0	50.0
B3 と B4 の両方を達成している。	100.0	100.0
C1 ～C5 をすべて達成している。	100.0	100.0
D1 ～D3 をすべて達成している。	100.0	100.0
D4 または D5 のどちらかを達成している。	100.0	50.0
E1 ～E5 のいずれかを達成している。	100.0	100.0
総合	100.0	72.0

<教育目標>

- A1 電気エネルギーの運用（発生、輸送、変換）に関する原理、実用化への問題と代表的な解決策を説明できる
- A2 制御対象の特性を表現した数式や図を用いて、安定性を考慮した制御システムを設計できる
- A3 エレクトロニクスに関する知識、特に IC を構成している電子素子の動作原理を理解し、それを応用した電子デバイスの利用技術や計測技術を身につけている
- A4 コンピュータを利用した情報の保持・変換・伝達のための概念を理解し、説明できる
- A5 電気・電子システム工学および関連分野の基礎知識・技術が、ものづくりの現場や実験実習の中でどのように活かされているかを認識し、理論学習の出発点としている
- A6 電気・電子回路の設計および実験実習を通してものづくりに必要な実践的知識とスキルを身に付けるとともに、安全意識を身につけている
- B1 自然科学の事象を数式や図等を用いてモデル化できる
- B2 自然現象、特に物理現象に関する諸量を理論に基づいて導出できる
- B3 電気・電子回路の基礎的内容である交流の定常現象について、物理的概念を理解し、電圧・電流値等を導出できる
- B4 電気磁気学の基礎的内容である静電界、静磁界の事象を理解し、それらに関する必要な

諸量を、理論に基づいて計算できる

- C1 研究の背景を自ら調査・整理し、よく理解している
- C2 技術的な問題点や社会における課題を明確にした上で、研究目的を設定し、研究方法を設計できる
- C3 専門的知識や技術レベルを考慮した上で研究日程を立案・実行し、必要に応じて修正することにより、計画的、継続的に研究できる
- C4 工学的手法によりデータを解析し、考察できる
- C5 複数の解決案を比較検討する等により、解決策を選択できる
- D1 実験・研究内容を整った章立てに従い、分かりやすい日本語で記述できる
- D2 研究内容を聴衆の理解度に合わせて発表できる
- D3 他者の研究・発表内容を理解し、的確に質問できる
- D4 基本語彙からなる英文を、日本語を介することなく読み、大意を把握できる
- D5 自律的、継続的な学習により、TOEIC450 点相当以上の英語運用能力を身につけている
- E1 技術者の責任、倫理的問題と解決策の事例を知り、自ら考える素養を持つ
- E2 技術と社会の関わりを歴史から学んでいる
- E3 社会の仕組みと歴史を知り、他者・他国の立場から物事を考えることができる
- E4 日本と国外の文化の差異を認識している
- E5 社会における技術者の役割および技術と人類の豊かさとの関係を理解している

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

各到達目標とも要件を満たすハードルはそれほど高くないことから、改善の必要はなく、従来通りの対応でよいと考える。今後、新カリキュラムが適用されても（大幅な科目の変更はない）十分に満たすことができる基準となっている。

2.3 情報工学科（担当：情報工学科長）

1) 現状

令和2年度情報工学科卒業生の「学科の教育目標」に対する「成績評価シート」により評価した教育目標ごとの成績分布（数値は延べ人数）の結果を図2.3-1に示す。この評価では、卒業生41名について教育目標ごとに一般科目およびeラーニング科目を除く成績（A、B、C、その他）を分類し、点数化（A=4、B=3、C=2、F、N=0）して平均のGPAを計算した結果、①で3.20、②で3.04、③で3.69、④で3.95、⑤で3.98となった。

情報工学科の教育目標：

① ものづくり能力

ハードウェア・ソフトウェアに関する知識・技能を総合的に活用することにより、実現可能なコンピュータシステムを構築できる能力を身につける。

② 基礎学力

電気回路・デジタル回路・ソフトウェア開発などの実験・実習を通して、数理基礎をはじめとした情報工学における個々の基礎理論を深く理解するとともに、総合力を身につける。

③ 問題解決能力

現実の問題や未知の問題に対して、問題の本質を的確に捉え、コンピュータを活用した問題解決手法を自ら立案・推進できる能力を身につける。

④ コミュニケーション能力

実験・実習・研究の結果を、筋道を立てて報告書にまとめ、説得力のある口頭発表を行なう能力を身につける。

⑤ 技術者倫理

情報モラルを有し、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を考慮できる技術者となる。

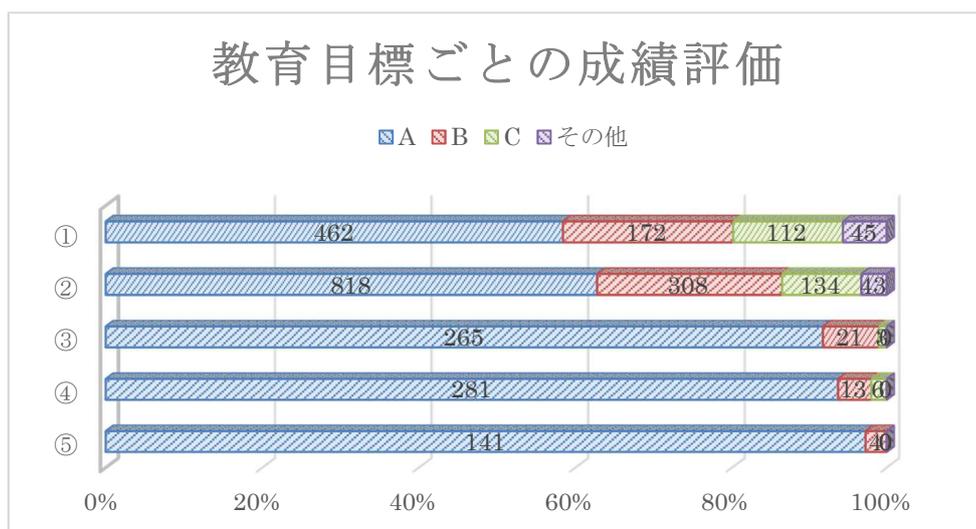


図 2.3-1 情報工学科の教育評価結果

令和2年度情報工学科の留年生は、1年生0名、2年生0名、3年生1名（休学）5名（成績不良）、4年生1名（休学）2名（成績不良）、5年生0名であった。

次に令和2年度情報科学専攻修了生の「学科の教育目標」に対する「成績評価シート」により評価した教育目標ごとの成績分布（数値は延べ人数）の結果を図2.3-2に示す。この評価では、卒業生6名について教育目標ごとに全科目の成績（A、B、C、その他）を分類し、点数化（A=4、B=3、C=2、F、N=0）して平均のGPAを計算した結果、①で3.82、②で3.19、③で4.00、④で3.78、⑤で3.67となった。

情報科学専攻の教育目標：

- ① ものづくり能力
ハードウェア・ソフトウェアの知識及び技能を総合的に活用し、社会に役立つコンピュータシステムを構築できる実践的技術者となる。
- ② 基礎学力
問題の本質を数理的にとらえ、コンピュータシステムを活用した問題解決方法を多角的視野から検討できる技術者となる。
- ③ 問題解決能力
社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有し、コンピュータを用いた適切な解析・処理を提案できる創造的技術者となる。
- ④ コミュニケーション能力
日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができるとともに、英語によるコミュニケーション基礎能力を有する技術者となる。
- ⑤ 技術者倫理
倫理観をもち、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を正しく認識できる技術者となる。

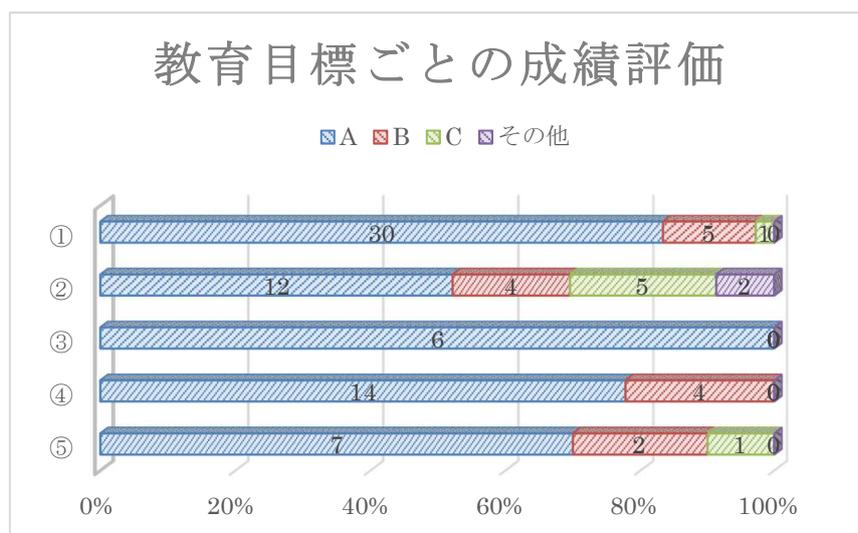


図 2.3-2 情報科学専攻の教育評価結果

ものづくり能力や問題解決能力を養うため、本学科では2年生から各自が所有する小型コンピュータやノートPCを使ったPBLの講義を行っている。特に小型コンピュータを使った実験では、個人やグループで1つのシステムを構築している。ただ、小型コンピュータは破損しやすいため、個人所有のものでは、学生に負担がかかってしまうという問題が挙げられた。これを改善するために実験で使用する小型コンピュータは、学科で用意するという改善策を講じた。

さらに情報工学科では、この小型コンピュータや個人所有のノートPCを使用した実験を多く行っている。情報回路実験室において、各テーブルにモニター、キーボード、マウスを設置し、実験がスムーズに行えるように使用環境を改善した。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

教育目標ごとの成績評価から、各目標とも80%以上がAまたはBの評価であり、GPAの平均が3.0を超えているため、問題は少ないと考える。

令和2年度で、新カリキュラムが完成した。教育目標ごとの学生の修得単位数が、昨年度から大幅に数が異なっているがバランスが良くなっていると考えている。今後5年間は現在のカリキュラムで進むので、継続的に評価を行う必要がある。

令和元年度専攻科修了生 5 名は、全員が各対象の評価方法をクリアして修了要件を満たして修了している。すなわち、各学習・教育到達目標の達成度は 100%である。

本科 5 年生については、4、5 年次のコア科目修得率を図 2.4-2 に整理する。これより、A1 人文・社会分野においては、本科における達成度評価対象が並行開講科目で構成されているので、修得率が 60%を達成しているとはいえない。ただし、主要分野においては社会システム計画の修得率が 97%であることがわかる。B1 の自然科学分野においても同様に、本科における達成度評価対象が並行開講科目で構成されており、多くが専攻科における開講科目であるために、修得率が 60%を超えていることは確認できない。B2 主要分野においては、A1 主要分野と同様に材料系、構造系および計画・環境系科目の修得率が 75%を超えていることが指摘できる。D2、E1、E2 の人文・社会分野でも並行開講科目を含んでいるために、本科において達成度が 60%を超えることは難しい状況である。ただし、各対象の評価方法の全体の 5 割程度はすでにすべての学生が単位を修得している。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

JABEE 修了要件における評価対象の科目は、必ずしも本科と専攻科で半数程度となっているわけではないので、修了要件を 60%達成していることを確認することは容易ではない。しかしながら、半数程度の評価対象についての要件満足度は 100%であり、主要分野に限っては 75%以上の学生は要件を満足していることが確認できる。今後、授業の履修要件が変わり、学生は必ずすべての科目を履修しなければならない。この制度変更によって修得率は改善するものと期待する。

4.3 コア 科目表		達成度評価計画		各対象の評価方法		修得率		評価方法に対する修得率						
学習・教育到達目標	分野	科目名	開講学年	単位数		本科4年次	本科5年次							
A1	社会基礎の役割	人文・社会	哲学Ⅰ	4	2	左記科目から1科 目以上取得	0		100	100				
			法学Ⅰ	4	2		36							
			経済学Ⅰ	4	2		31							
			経済学Ⅱ	4	2		31							
			現代社会学Ⅰ	4	2		17							
			現代社会学Ⅱ	4	2		11							
			社会科学特論Ⅰ	5	2									
			社会科学特論Ⅱ	5	2		17							
			人文科学特論Ⅰ	5	2		25							
			人文科学特論Ⅱ	5	2									
主要分野 (土木系)	社会システム計画	4	2	左記科目から1科 目以上取得	92	97								
	地盤防災工学	5	2	目以上取得		83								
	道路工学	5	2			69								
	環境都市応用工学	4	1		100									
A2	設計能力	実務	創構造	5	2	必修以外に左記科目から2科目以上 取得		81	100	100				
			都市計画論	7	2									
			校外実習A	4	1		19							
			校外実習	4	2		78							
			インターンシップA	6	2									
			インターンシップ	6	4									
			卒業研究	5	8		100							
			特別研究Ⅰ	6	4									
			特別研究Ⅱ	7	8									
			総合											
B1	基礎知識	応用数学	統計学	4	2	左記科目から9科 目以上取得	100		100	100				
			解析学A	4	1		100							
			解析学B	4	1		92							
			数学特論	4	2		58							
			線形代数	6	2									
			初等代数	7	2									
			応用解析学Ⅰ	6	2									
			応用解析学Ⅱ	7	2									
			微分特論	4	2		33							
			化学特論	4	2		8.3							
自然科学	統計力学	7	2											
	健康科学特論	7	2	左記科目から2科 目以上取得										
	解析力学	6	2	目以上取得										
	生体情報論	7	2											
	生物化学	6	2											
	原子物理学	6	2											
	情報	情報処理Ⅲ	4	1	左記科目から1科目以上取得	100		100	100					
	環境都市CAD演習	6	2											
	B2	実務能力	主要分野 (土木系)	コンピュータ基礎学ⅡA	4	1	左記分野から1科 目以上	97		100	100			
				コンピュータ基礎学ⅡB	4	1		83						
高機能コンピュータ				6	2									
構造力学ⅡA				4	1	左記分野から1科 目以上	88							
構造力学ⅡB				4	1		94							
構造工学				7	2									
土質力学ⅡA				4	1	左記分野から1科 目以上	100							
土質力学ⅡB				4	1		91							
応用地盤工学				6	2	目以上		100	100					
測量学ⅡA				7	2									
B3	実験	実験実習	環境都市CAD演習	4	1	左記科目から2科目以上取得	100		100	100				
			水理実験	4	1		100							
			建設工学創造実験	6	2									
			都市計画	4	2		100							
			建設施工	5	2		100							
			リモートセンシング	5	2		100							
			都市地域解新論	6	2									
			設計製図Ⅱ	4	1		100							
			設計製図Ⅲ	5	1		72							
			環境都市創造ゼミ	4	1		100							
C1	問題提起能力	主要分野 (土木系)	建設施工	5	2	左記科目から2科目以上取得	100		100	100				
			リモートセンシング	5	2		100							
			都市地域解新論	6	2									
			設計製図Ⅱ	4	1		100							
			設計製図Ⅲ	5	1		72							
			環境都市創造ゼミ	4	1		100							
			建設工学創造実験	6	2									
			環境都市設計演習	7	2									
			校外実習A	4	1		必修以外に左記科目から2科目以上 取得	19						
			校外実習	4	2		78							
C2	問題解決能力	実務	インターンシップA	6	2	必修以外に左記科目から2科目以上 取得			100	100				
			インターンシップ	6	4									
			卒業研究	5	8		100							
			特別研究Ⅰ	6	4									
			特別研究Ⅱ	7	8									
			総合											
			日本語	日本語表現	4		2	必修以外に左記科目から1科目以上 取得			100		100	100
			日本の言葉と文化	6	2									
			卒業研究	5	8		100							
			特別研究Ⅰ	6	4									
特別研究Ⅱ	7	8												
科学英語基礎ⅡA	4	1	83											
科学英語基礎ⅡB	4	1	61											
英語ⅠA	4	1	83											
英語ⅠB	4	1	78											
英語Ⅱ	5	2	44											
D1	日本語	人文・社会	英語Ⅲ	5	2	6科目以上取得								
			総合英語Ⅰ	6	2		28							
			総合英語Ⅱ	7	2									
			上級英語表現	7	2									
			技術英語	6	2									
			国際技術表現	6	2									
			歴史特論Ⅰ	2	4									
			歴史特論Ⅱ	4	2									
			文学特論	5	2									
			歴史学	5	2									
D2	英語	人文・社会	哲学Ⅱ	4	2	2科目以上取得	11							
			法学Ⅱ	4	2		28							
			産業論理	5	2		38							
			人文科学特論Ⅱ	5	2									
			技術者倫理	6	2									
			哲学Ⅱ	4	2									
			法学Ⅱ	4	2									
			産業論理	5	2		53							
			人文科学特論Ⅱ	5	2		19							
			技術者倫理	6	2									
E1	文化や歴史の認識	人文・社会	哲学Ⅱ	4	2	2科目以上取得								
			法学Ⅱ	4	2									
			産業論理	5	2									
			人文科学特論Ⅱ	5	2									
			技術者倫理	6	2									
			哲学Ⅱ	4	2									
			法学Ⅱ	4	2									
			産業論理	5	2		53							
			人文科学特論Ⅱ	5	2		19							
			技術者倫理	6	2									
E2	倫理観	人文・社会	哲学Ⅱ	4	2	2科目以上取得								
			法学Ⅱ	4	2									
			産業論理	5	2									
			人文科学特論Ⅱ	5	2									
			技術者倫理	6	2									
			哲学Ⅱ	4	2									
			法学Ⅱ	4	2									
			産業論理	5	2		53							
			人文科学特論Ⅱ	5	2		19							
			技術者倫理	6	2									

図 2.4-2 コア科目修得状況

2.5 建築学科（担当：建築学科長）

1) 現状

まず本学科の評価結果を述べる。「学科の学習教育目標」（表 2.5-1）に沿った「評価シート」により GPA で評価した結果、平成 28-30 年度は図 2.5-1 に示される結果となった。

ここで、GPA は、A=4、B=3、C=2、F=0 で各教育目標毎の平均値を算出している。平成 28 年度本学科卒業生は 49 名、29 年度は 37 名、30 年度は 40 名、31 年度は 44 名、令和 2 年度は 49 名である。平成 28 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.33、B で 3.15、C で 3.35、D で 3.32、E で 3.53、であり、平成 29 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.12、B で 2.87、C で 3.24、D で 3.10、E で 3.33、平成 30 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.35、B で 3.20、C で 3.45、D で 3.42、E で 3.42、平成 31 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.46、B で 3.26、C で 3.53、D で 3.39、E で 3.53、令和 2 年度の平均は、学習教育目標 A で 3.41、B で 3.38、C で 3.49、D で 3.53、E で 3.71、と過去 2 年ではほぼ最高値に達している。以後、経年変化を観測する必要がある。

表 2.5-1 学科教育目標

A	広い視野から建築に関する問題を捉え、解決できる技術者をめざす
B	建築に必要な基礎知識を備えた技術者をめざす
C	実務能力を備えた技術者をめざす
D	コミュニケーション能力が優れた技術者をめざす
E	文化に通じ倫理観を持つ技術者をめざす

次に専攻科の評価結果を述べる。「専攻科の達成度評価対象科目」（表 2.5-2）を用い、各到達目標<*>軸と JABEE 教育目標(基準 1)(<*>)軸に該当している各分野の半数以上を修得していれば各々達成していると判断する。その都合いについては、次式を用いる。

<*>(<*>)の達成度

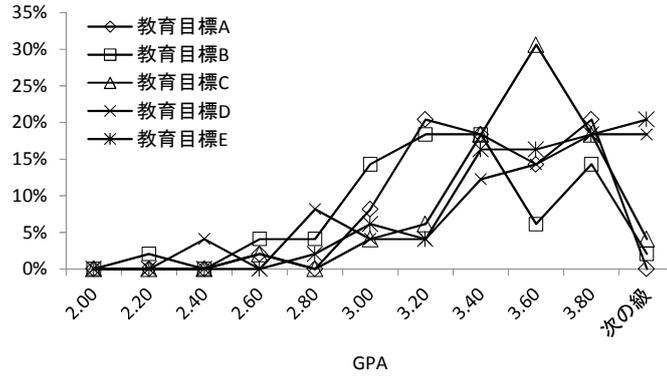
$$= (60 \times \text{成績 C の} \langle * \rangle \text{の科目数} + 80 \times \text{成績 B の} \langle * \rangle \text{の科目数} + 100 \times \text{成績 A の} \langle * \rangle \text{の科目数}) / \langle * \rangle \text{の修得科目数} \quad (2)$$

以上の方法により該当学生の達成度評価を表 2.5-3 のように算出した。

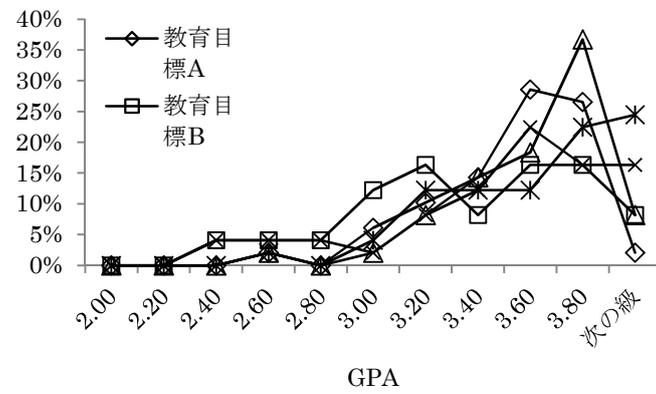
達成度の平均値を図 2.5-2 に示す。なお、学生数は、平成 28 年度 3、平成 29 年度 4 名、平成 30 年度 3 名、平成 31 年度 2 名、令和 2 年度 6 名である。全体的に高得点であるが、「技術者倫理」を示す JABEE 学習・教育目標 b および建築学プログラム学習・教育目標 E2 が平成 28 年度には 60 点と奮わなかったが、年度を追うごとに改善が見られたが、令和 2 年度は平均的な値となった。以後、経年変化を観測する必要がある。

2) 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

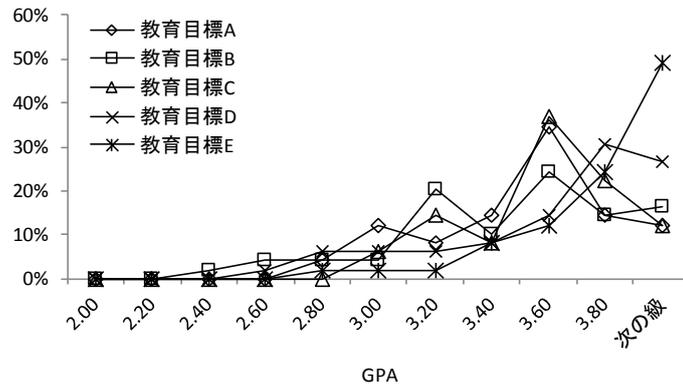
本科では専門科目の達成度が前年度に大きく下がったが持ち直した。今後は、継続的にデータを取りつつ、問題点を把握する予定である。



a) 平成30年度



b) 平成31年度



c) 令和2年度

図 2.5-1 教育評価結果 (本学科)

表 2.5-2 専攻科の達成度評価対象科目

(a-i : JABEE 学習・教育目標、A-E : 建築学プログラム学習・教育目標)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	
A	建築設計製図VA 本 4				建築設計製図VA 本 4	建築設計製図VA 本 4	建築設計製図VA 本 4	建築設計製図VA 本 4	建築設計製図VA 本 4	
	建築設計製図VB 本 4				建築設計製図VB 本 4	建築設計製図VB 本 4	建築設計製図VB 本 4	建築設計製図VB 本 4	建築設計製図VB 本 4	
	建築設計製図V 本 5				建築設計製図V 本 5	建築設計製図V 本 5	建築設計製図V 本 5	建築設計製図V 本 5	建築設計製図V 本 5	
	建築学設計演習 I 専 1				建築学設計演習 I 専 1	建築学設計演習 I 専 1	建築学設計演習 I 専 1	建築学設計演習 I 専 1	建築学設計演習 I 専 1	
				卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2	卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2	卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2	卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2	卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2	卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2	
B1			線形代数学 専 1 応用解析 I 専 1 初等代数 専 2 応用解析 II 専 2 解析力学 専 1 原子物理学 専 1 生物物理学 専 1 統計物理学 専 2 生体情報論 専 2							
	B2		建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4	建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4						
				建築学計画実験 専 2	建築学計画実験 専 2					
	B3		建築材料実験 本 4 建築構造実験 本 4 建築環境実験 本 4 建築学計画実験 専 2	建築材料実験 本 4 建築構造実験 本 4 建築環境実験 本 4 建築学計画実験 専 2						
			建築学計画実験 専 2	建築学計画実験 専 2						
			高機能コンクリート 専 1 建築環境工学論 専 1 ファンクショナルデザイン 専 1 建築学計画実験 専 2 都市空間論 専 2 構造設計論 専 2 建築材料論 専 2 計測力学 専 1 住居論 専 4 都市計画論 専 2							
			建築材料実験 本 4 建築構造実験 本 4 建築環境実験 本 4 建築学計画実験 専 2	建築材料実験 本 4 建築構造実験 本 4 建築環境実験 本 4 建築学計画実験 専 2				建築材料実験 本 4 建築構造実験 本 4 建築環境実験 本 4 建築学計画実験 専 2	建築材料実験 本 4 建築構造実験 本 4 建築環境実験 本 4 建築学計画実験 専 2	
C1										
C2				建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1	建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1	建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1	建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1	建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1	建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1	
D1						特別研究I 専 1 特別研究II 専 2				
D2						建築設計製図VA 本 4 建築設計製図VB 本 4 建築設計製図V 本 5 建築学設計演習 I 専 1 卒業研究 本 5 特別研究I 専 1 特別研究II 専 2				
E1	地域と産業 専 1 歴史学 専 1 健康科学特論 専 2									
E2									技術者倫理 専 1	

表 2.5-3 専攻科の達成度評価事例

2015-2016		JABEEの学習・教育目標									
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	AVE.
建築学 プログラム の 教育目標	A	90 ○			93 ○	92 ○	92 ○	92 ○	90 ○		91
	B1			70 ○							70
	B2			90 ○	85 ○						88
	B3			90 ○	91 ○						90
	C1			90 ○	90 ○				90 ○	90 ○	90
	C2				90 ○	90 ○	90 ○	90 ○	90 ○		90
	D1						90 ○				90
	D2						70 ○				70
	E1	80 ○									80
E2		60 ○								60	
AVE.		85	60	85	90	91	85	91	90	90	

○印は、修得科目数を満たしていることを示す

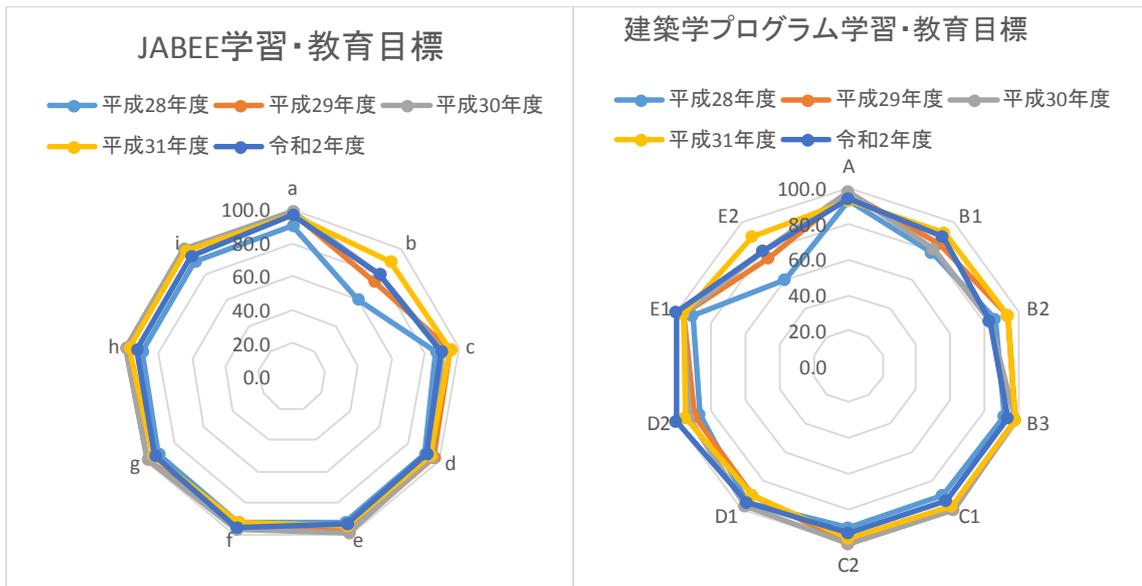


図 2.5-2 教育評価結果（専攻科）

2.6 一般学科（担当：一般学科長）

1) 現状

進級判定会議資料を利用して作成できる学年 GPA により評価した結果、図 2.6-1 に示される結果となった。

	1年	2年	3年	4年	5年
機械	3.586	3.586	3.372	2.969	3.302
電気	3.701	3.449	3.364	3.470	3.314
情報	3.753	3.761	3.346	3.450	3.439
環境	3.585	3.531	3.373	3.193	3.339
建築	3.719	3.631	3.341	3.502	3.500

図 2.6-1 学年 GPA

今年度はコロナ禍ということで、前学期は遠隔授業となり、後学期は通常の対面授業となった。特に前学期の遠隔授業においては、常勤教員や非常勤講師の先生方には多くの配慮と授業工夫を行っていただいた。配信装置の途中変更による対応には技術員ならびに非常勤講師の先生には多くの対応をはかっていただいた。また、ネットワークにおける個々の状況により上手く配信出来たのか、学生側にとっては上手く受信できたのかなど次年度に向けてテクニカルな検討事項が多くあげられるので検証を行い対応していきたい。

図 2.6-1（学年 GPA）の結果を見ると、ほぼ全クラスにおいて昨年度より評価は向上傾向が見られた。後学期に行った通常の対面授業の際には、各科目において前期分も含めたフォローアップを行っていただいた成果と考えている。また、例年行っている専門学科との連絡会を各科目ごとに年度の半ばに行い、有意義な意見交換がなされた。以下にその概要を示す。

国語科

国語科からは、達成目標・学習の手引き・科目別の学習内容と到達目標の説明を行った。専門学科からは、高学年になると文章力が向上する事実と、レポート作成時に学生が苦勞する点について報告があったため、協力方法を議論した。

社会科

専門学科からは学生の興味関心を湧き起こし、将来につながる授業を望む声が上がった。社会科としては、学生の授業への関心を引き付ける試みとしてグループディスカッションや作業学習を取り入れるなどの対策を取っていることを述べた。確かに、社会的な事象を学ぶ上で「覚える」ということは不可避である。しかしながら、覚える作業は決して誤りではない。なぜなら、将来、技術者になった際の技術の発想に資するものであるからだ。また、学生自身が社会的な事象に対して関心が持てれば、事象の背景である因果関係やプロセスを把握しやすくなり、知識が頭に入りやすくなるものである。

数学と理科

数学の復習試験の結果報告があり成績の改善効果のある学生が多い旨のまとめがあった。今年度は前期遠隔授業となったことから例年行っていた数学勉強室ができなかった。ことから、成績不振者の洗い出し及び早期のボトムアップが行えなかった。よって、成績を見ても成績優秀者と不振者の差が大きくなった。物理・化学からも復習試験の結果報告があった。物理においても数学同様勉強室ができなかったことから、成績優秀者と不振者の差が大きくなった。次年度からは対面授業を行う予定であり、いずれの科目も補習・勉強会・個別指導といったフォローアップを復活させること、ならびにティーチングアシスタントを継続して採用するなどしてより手厚い指導も試みることとなった。

英語科

平成 17 年度から全学あげて英語教育改革を行ってきた。「多読・多聴指導」、「語彙・コロケーション指導」、「プレゼンテーション指導（プレコン指導含む）」、「文法指導」は有機的に結びつき効果を上げている。今年度からは、グローバルエンジニアリングプロジェクトが開始され本科 3 学年に通年科目として英語で講義を行う科学英語基礎 IA・IB の授業が開始された。今後も一般学科の教員や専門学科の教員に関わらず、英語教育に関心を持ってもらえるよう働きかけていく予定である。

学科によっては高学年になると英語を履修する学生が減少することもあり、多くの学生に英語科目を履修するようにご指導願いたいとの要望が出された。英語科では発信型英語教育カリキュラムの構築及び実践（英語 4 技能の獲得）を取り組んでおり要望に十分に配慮されると考えている。

令和2年度の専攻科2年生の就職・進学の一覧を表3.1-2に示す。修了者26名の内、18名が就職している。就職先は製造業、IT系、インフラ系、県庁など多岐に渡り、希望者全員が就職した。進学面でもいわゆる有名大学(旧帝国大学)を含む国立大学の大学院に進学者全員の7名が進学しているなど進路状況は良好だったと言える。

表 3.1-2 進路先一覧 (令和3年3月専攻科修了)

電子機械工学専攻		情報科学専攻		建設工学専攻	
機械工学科	電気・電子システム工学科	情報工学科	環境都市工学科	建築学科	
●就職	●就職	●就職	●就職	●就職	
(株) ATTARArt	オークマ (株)	(株) デンソー	昭和コンクリート工業 (株)	大成建設 (株)	
ヤマハ (株)	(株) SUBARU	(株) トヨタシステムズ	日本工営 (株)	(株) 中日設計	
ソフトバンク (株)	(株) キャッチネットワーク	(株) FIXER	愛知県庁	(株) リブテック	
(株) トヨタシステムズ				東海旅客鉄道 (株)	
●進学	●進学		●進学	名古屋港管理組合	
名古屋大学大学院	豊橋技術科学大学大学院		名古屋大学大学院		
広島大学大学院			名古屋工業大学大学院	●進学	
				北海道大学大学院	
●その他				神戸大学	
未定 (進学予定)					
計11名		計3名		計12名	

3.2 生活指導に関わる事項 (担当：学生主事)

本年度の規則違反は、表3.2-1となった。本年度の問題点を下記に列挙する。コロナ禍で8月まで対面授業を実施することができなかつたため、学生が学校へ登校することが少なく例年の資料とはサンプル期間が異なっている。しかし、前年度よりも指導件数は減少したことは、コロナ禍で様々な面で苦労した学生の精神状態を考え対応した教職員の日頃の学生指導の結果と考える。特に1年2年低学年時に学年団(指導教員プラス学年主任)による学習指導と生活指導を開始してから約10年が経ちその効果が現れている結果と考える。前年度に報告されたように近年の学生指導件数は減少している。学生の情報共有については、週1回の学年会議、学生サポート室との連携によってクラスによる指導のばらつきをなくし、学生の問題にいち早くアプローチできるようになった。一方で以前とは異なり、心の問題を訴える学生、支援を求める学生が多くなってきておりさらなる関係部署間での連携の強化、複数教員での学生サポートが必要である。

また、3年生以上の学科別の指導においては、学科の特性を考慮するため指導のばらつきがある。情報共有と指導方法の改善のために、指導教員会議で各学科から学生の状況を学年別に報告する機会を設けている。

表 3.2-1 学生指導件数一覧 (令和2年度)

事案	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	合計	前年度比
飲酒	0	0	0	0	0	0	0	±0
喫煙	0	0	0	0	1	0	1	-7
窃盗	0	0	0	0	0	0	0	-1
試験時の不正行為	0	0	0	0	0	0	0	-1

3.3 学生の健康に関わる事項（担当：学生主事）

疾病・傷害・カウンセリングなどの本年度の実績は、表 3.3-1 となった。

疾病と傷害については、8月までは一部の学生のみ登校が許可されていたため保健室を利用する学生も少なかった。9月以降内科系外科系の利用者が多かった。インフルエンザ症状の学生の利用はなくコロナ感染予防のためのマスク着用の効果と考えられる。今後感染症予防のためにマスク着用をすることを勧めていく。健康相談・学生相談は多く、100件以上の相談件数があった月もある。学生サポート室ではカウンセラーを置くことにより対応しているが、問題解決のために指導教員などと協力していくことが必要である。学年では3年生以下の利用者が多かった。

表 3.3-1 令和2年度保健室利用状況について

令和2年度 保健室利用状況 集計表

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内科系	風邪症状	0	0	2	0	2	14	16	20	7	23	40	0	124
	インフル症状	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	頭痛	0	0	1	1	1	5	4	5	7	4	3	0	31
	消化器症状	0	0	1	0	0	9	7	0	1	8	5	0	31
	脳貧血	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
	胸部痛	0	0	2	0	1	0	1	1	5	0	0	0	10
	その他	0	0	3	3	4	12	10	11	6	11	8	1	69
外科系	挫創・切創	1	1	0	1	3	13	22	9	18	12	1	2	83
	打撲・腫脹	0	0	0	2	0	2	5	1	4	3	0	1	18
	捻挫	0	0	0	0	0	1	2	3	2	1	1	1	11
	つき指	0	0	0	0	0	0	0	11	6	2	0	0	19
	骨折	0	0	0	0	0	0	0	4	1	2	1	1	9
	腰部部痛	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	5
	関節痛	0	0	1	0	0	3	1	5	4	0	0	1	15
	筋肉痛	0	0	1	0	0	0	3	1	0	1	0	1	7
	その他	0	0	0	0	1	13	5	11	15	8	4	0	57
	皮膚科	マメ・蕁麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
虫刺され		0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
湿疹		0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
凍(熱)傷		0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
その他		0	0	2	5	0	4	3	8	5	1	1	1	30
耳・鼻・喉・口	鼻出血	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
	鼻骨骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口内炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯痛	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	その他	0	0	1	0	0	2	1	1	3	2	1	1	12
眼	結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	麦(膜)粒腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	眼内異物	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	4
婦・泌	生理痛	0	0	0	0	0	0	5	5	3	5	0	0	18
	膀胱炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	STD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	6
メンタル・他	健康相談	3	1	47	64	17	23	9	5	8	3	1	0	181
	休養	0	0	0	1	0	0	1	3	1	1	0	0	7
	雑談	0	0	1	0	0	1	3	6	1	1	0	0	13
	学生相談	7	16	29	45	35	95	109	113	97	140	97	45	828
	自主学習	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
その他	個別支援	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	その他	0	0	2	0	2	8	4	5	3	5	5	1	35
1年	男	2	1	11	6	3	12	14	25	12	9	3	3	101
	女	0	0	6	8	3	5	15	19	12	21	6	1	96
2年	男	1	0	5	9	5	22	25	29	20	37	16	8	177
	女	0	0	4	1	5	8	6	10	9	15	10	2	70
3年	男	0	4	4	9	5	16	28	31	31	30	26	3	187
	女	0	0	0	2	0	19	18	30	32	24	18	0	143
4年	男	2	4	9	31	17	51	30	30	37	37	25	17	290
	女	0	0	8	6	1	2	4	5	3	12	10	1	52
5年	男	1	1	18	8	2	9	9	10	7	8	3	0	76
	女	0	0	1	4	3	3	6	6	3	2	1	0	29
専攻科生		3	5	7	5	2	1	7	6	4	5	2	3	50
計		9	15	73	89	46	148	162	201	170	200	120	38	1271
教職員		0	3	20	29	7	39	42	22	28	15	9	15	229
その他(保護者)		2	1	3	6	13	14	6	7	1	17	36	4	110
合計		11	19	96	124	66	201	210	230	199	232	165	57	1610

特別講演会の実施状況は、表 3.3-2 となった。コロナ禍で密の状態を回避するために集団での講演会を行うことができなかった。そのため例年よりも少ない講演会実施回数となった。今後は同様の状況になった場合の対応策を考え、オンライン講習を含め講演会の実施方法と実施回数の改善が必要である。

表 3.3-2 令和2年度特別講演会等の実施状況について

	対象者	講演内容	担当講師	実施日程
1	第1学年	大切にしたい心とからだ	咲江レイズクリニック 丹羽 咲江 医院長	R2/10/8 (木)
2	教職員	エビペンの使用方法を含む アレルギーの対応について	木之本 奈美 看護師	R2/4/3 (金)
3	教職員	集団守秘に関する研修会	伊藤 卓秋 学生相談員	R2/12/2 (水)

3.4 クラブ活動に関わる事項（担当：学生主事）

本年度の所属状況は、表 3.4-1 となった。令和2年度は1年生の調査は実施しなかった。2年生から5年生を対象に所属調査を Forms を利用して行ったところ 819 名の回答が得られた。その中でクラブに所属している学生は 638 名で所属率は 77.8%であった。入学学生を 200 名と考えると、2年3年はやく 90%の学生が何らかのクラブ活動に参加しており、4年生で 80%程度になっている。学年が進むにつれて所属率は下がり5年生は所属学生が学生数の 50%程度になっている。

活動実績については、東海地区高専体育大会、全国高専体育大会、様々な高校大会が中止になったこともあり十分な活動ができなかった。大会の中止が5月の中旬に決まったこともあり調査を行った6月にはすでに5年生が引退していた可能性がある。また、寮に入寮できる学生数が減り通学時間が2時間以上かかる学生も増えており今後のクラブ活動参加者の減少も心配される。活動形態・時間・内容についても学生が参加できるように整備していく必要がある。

表 3.4-1 令和2年度クラブ所属状況について

	機械工学科	電気・電子システム工学科	情報工学科	環境都市工学科	建築学科	学年別参加者
1年	調査なし					
2年	39	31	40	36	32	178
3年	40	41	36	30	34	181
4年	34	27	31	36	36	164
5年	17	17	30	24	27	115
学科別参加者	130	116	137	126	129	638

3.5 キャリア教育に関わる事項（担当：キャリア教育支援室長）

主にホームルームまたはアカデミックガイダンス（水曜日、午後）の時間に、各学年またはクラスの全学生を対象として実施した、本年度のキャリア教育支援プログラムを表 3.5-1 に示す。

表 3.5-1 令和2年度キャリア教育支援プログラム一覧

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
4月	学生心得講座（4/16）				
5月				ビジネスマナー講座（5/27）	
6月		目標設定・確認講座（6/3、オンデマンド）	キャリア・プランニング（6/10、17、24）		
7月	将来イメージ講座（7/8）		社会が求める人材（7/29）		
10月	スキルアップ講座（10/21）	今の私・卒業後の私①（10/28）			
11月			今の私・卒業後の私②（11/11） 班分け&進路情報調査の開始		
12月		人間力講演会（12/9）	今の私・卒業後の私②（12/9） 進路情報調査結果の発表	就職活動支援講座（12/4）	社会人準備講演会②（労働法・租税）（12/4）

昨年度は、新型コロナウイルスの関係で、前期が遠隔授業だったこともあり、その期間に予定されていた行事のうち、1年生の合宿研修が中止になり、その他の行事も遠隔で可能なものは遠隔で行った。また、対面で行うことが望ましいものについては、日程を変更して後期に行った。また、1月に予定されていた3、4年生対象の仕事ガイダンスが中止となった。インターンシップの選考過程化など、就職活動状況の変化を受けて、ビジネスマナー講座を従来より早い5月に実施した。

表 3.5-2 に、本科 4 年生および専攻科 1 年生の希望者向けに実施した、進路活動に関するキャリア教育支援プログラムの一覧を示す。前年度と比べ全体的に就職活動対策関連の講座の実施時期を早めている。「同窓生による模擬面接講座」は新型コロナウイルス感染防止の観点から、遠隔での実施となったが、遠隔の面接が通常の対面での面接と異なる点や注意事項が良くわかり、学生にとって良い経験になった。

表 3.5-2 希望者向けの令和 2 年度キャリア教育支援プログラム一覧

実施日	講座名	委託先	参加人数
12/4	就職活動支援講座	メディア総研	129
12/12	自己表現力向上プログラム	豊田高専同窓会	97
12/16	進学説明会	ECC 編入学院名古屋校	152
12/19	履歴書の作成添削講座	(株)マナーマネジメント名古屋	43
1/9	模擬面接講座	(株)マナーマネジメント名古屋	44
1/16	同窓生による模擬面接講座	豊田高専同窓会	130

また、5 年生を対象に卒業時に、第 1 学年から第 4 学年のキャリア教育支援プログラムについてアンケート調査を行った。図 3.6-1 は、各学年のプログラムが自らのキャリア形成にどの程度役立っているかを尋ねた結果である。

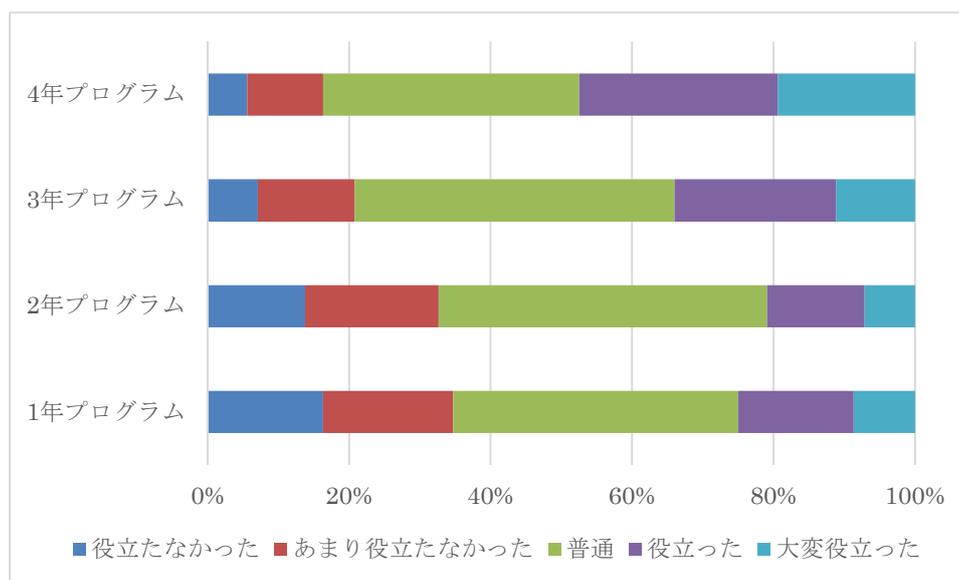


図 3.5-1 キャリア教育支援プログラムに対する卒業時アンケート結果

この結果より全体として、おおむねキャリア教育支援プログラムは学生のキャリア形成に役に立っていることがうかがえる。また、第 3、4 学年のプログラムが高評価を得ていることがわかる。これは、高学年になるにつれて進路について具体的に考えるようになり、目的意識をもって取り組んだためだと思われる。

次に、全体のプログラムにおいて最も有用であったプログラムを尋ねたところ、上位 3 つは第 1 学年の「合宿研修」、第 2 学年の「人間力講演会」、第 4 学年の「進学講座」であっ

た。さらに、第2学年の「目標設定・確認講座」、第4学年の「ビジネスマナー講座」が続いた。

これらのアンケート結果を踏まえ、講座の内容、実施時期等を見直していく。

3.6 各種資格取得者数（本科担当：教務主事）

課題研究として単位が認められる資格の取得状況（平成27-令和2年度）を表3.7-1に示す。令和2年度の本科5年生の資格取得状況については卒業判定会議（R3/3/8）で、本科1~4年生については進級判定会議（R3/3/9）においてそれぞれ報告された。ただし、年度末の2月と3月に取得した資格については、判定会議資料には含まれていないが、表3.7-1には含まれている。年2回団体受験をしている実用数学技能検定とTOEICについては、それぞれ教務委員会で詳細な結果が報告された。

令和2年度の全資格の取得数は、前年度より200件ほど減少した。これは、新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、これまで学内で第3学年を対象に実施してきたTOEIC-IP受験を、令和2年度はおこなわず、令和3年度から第4学年でおこなうことにした影響もある。工業英語能力検定4級は前年度に引き続き減少傾向が見られる。また、昨年度まで増加傾向にあった実用英語技能検定などの取得数は大きく減少した。

表 3.6-1 令和2年度の課題研究単位認定数一覧

課題研究名称	級(種別)	H27	H28	H29	H30	H31	R2
実用数学技能検定	準2級	57	84	50	70	75	24
実用数学技能検定	2級	7	13	14	18	27	24
実用数学技能検定	準1級	3	0	3	2	1	3
実用数学技能検定	1級	0	0	0	0	1	0
実用英語技能検定	準2級	12	14	18	21	39	16
実用英語技能検定	2級	8	9	17	15	25	7
実用英語技能検定	準1級	3	0	4	0	3	2
実用英語技能検定	1級	0	0	0	0	0	0
技術英語能力検定	3級	27	60	64	37	30	12
技術英語能力検定	2級	2	3	5	10	5	0
技術英語能力検定	1級	0	0	0	1	0	0
技術英語能力検定	準フ。ロ フエツショナル	0	0	0	0	0	0
技術英語能力検定	フ。ロフエツ ショナル	0	0	0	0	0	0
T O E I C	I	23	27	42	33	32	8
T O E I C	II	17	18	33	20	16	5
T O E I C	III	23	15	20	17	22	11
T O E I C	IV	13	12	16	19	15	11
T O E I C	V	5	8	12	10	5	4
T O E I C	VI	11	12	10	11	11	9
ドイツ語技能検定	4級	0	0	1	0	0	0
ドイツ語技能検定	3級	3	1	6	10	2	5
ドイツ語技能検定	2級	2	5	1	2	2	1
ドイツ語技能検定	準1級	0	0	0	0	1	0
実用フランス語技能検定	4級	0	0	0	0	0	0
実用フランス語技能検定	3級	0	1	0	0	0	0
実用フランス語技能検定	準2級	0	1	0	0	0	0
実用フランス語技能検定	2級	0	0	0	1	1	0
実用フランス語技能検定	準1級	0	0	0	0	0	0
実用フランス語技能検定	1級	0	0	0	0	0	0
スペイン語技能検定	5級	0	0	0	0	0	0
スペイン語技能検定	4級	1	0	3	0	0	0
スペイン語技能検定	3級	0	1	0	0	0	0
日本漢字能力検定	2級	6	2	6	3	6	8
日本漢字能力検定	準1級	0	0	0	0	0	0
留学生日本語能力試験	1級	0	0	0	0	0	0
ビオトープ計画管理士	2級	0	0	0	1	0	0
ビオトープ施工管理士	2級	0	0	0	0	0	0
防災士資格取得試験		0	0	0	0	0	1
ディシタル技術検定	3級	31	23	21	17	24	21
ディシタル技術検定	2級	12	30	10	5	6	5
CGエンジニア検定(エキスパート)		0	0	1	0	0	0
電気主任技術者	3種	4	0	2	1	1	1
電気工事士	2種	0	0	0	5	5	0
陸上無線技術士	1級	0	0	0	0	0	0
技術士第一次試験		23	27	20	13	10	0
ITハ。スホ。ート試験		4	15	8	8	5	7
基本情報技術者		15	5	13	5	8	0
応用情報技術者		3	2	3	2	1	1
2次元CAD利用技術者	2級	13	4	5	25	16	16
機械設計技術者試験	3級	7	0	2	1	0	0
土木施工管理技士	2級	0	0	1	0	1	1
宅地建物取引士		1	0	0	0	0	1
福祉住環境コーディネーター検定	3級	4	10	4	3	9	2
福祉住環境コーディネーター検定	2級	1	6	7	0	3	3
合計		341	408	422	386	408	209

4. 学寮に関すること（担当：寮務主事）

4.1 現状

定められた教育目的・目標の達成のための取り組みとして、表 4.1-1 の活動を行った。

令和2年度学寮関係行事・イベント一覧			
前期			
日程	行事・イベント	対象	場所
8月29日(土)	寮指導学生ミーティング	寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設
9月29日(土)～30日(日)	荷物搬入	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
8月30日(日)	開寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
8月30日(日)	学寮アセンブリ	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
8月30日(日)	寮生総会	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
後期			
日程	行事・イベント	対象	場所
10月10日(土)～10月11日(日)	オープンキャンパス 学寮紹介	寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設(食堂)
10月14日(水)	学寮防災避難訓練	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
11月4日(水)	学寮アセンブリ(低学年寮・高学年寮で分離)	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・第2体育館
12月7日(月)	食堂業者とのミーティング	寮生会	豊田工業高等専門学校学寮施設(食堂)
12月9日(水)	学寮アセンブリ	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
12月9日(水)	寮生総会	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
12月13日(日)	いも祭	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮敷地内
12月24日(木)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
1月6日(水)	開寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
1月6日(水)	学寮アセンブリ(低学年寮・高学年寮で分離)	全寮生	豊田工業高等専門学校第2体育館・第2体育館
1月17日(日)	新年会	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮敷地内
1月27日(水)	学寮アセンブリ(低学年寮・高学年寮で分離)	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館・第2体育館
2月19日(金)	学寮アセンブリ・閉寮式感謝状授与式	全寮生	豊田工業高等専門学校第1体育館
2月19日(金)	閉寮	全寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設
2月23日(火)	荷物搬出日	寮生(必要な者)・寮指導学生	豊田工業高等専門学校学寮施設
通年			
日程	行事・イベント	対象	場所
毎週水曜日	班長ミーティング	班長	豊田工業高等専門学校学寮施設(栄志西集会室)
毎週木曜日	指導寮生委員会	指導寮生	豊田工業高等専門学校学寮施設(栄志西集会室)
毎週日曜日	寮生会役員会	寮生会役員	豊田工業高等専門学校学寮施設(メディアルーム)
	低学年または留学生関連行事		高学年指導学生関連行事

令和2年度は4月当初から新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けての閉寮状態が続き、本科の対面授業開始に備えて学寮が開寮したのが8月30日であった。入寮者数を例年の半数程度に制限した上で、新型コロナウイルス感染症対策のために設けた「特別運営ルール」のもとでの寮運営となった。希望しながらも入寮が叶わなかった多くの学生の存在は大変残念であった。また、恒例の寮内の行事のうちの多く（寮祭、低学年寮生の朝体操、寮内運動祭、留学生から出身国の料理を提供してもらう食事会など）は中止とせざるを得ず、令和元年までの寮運営とは大きな隔たりが出来てしまった。

豊田高専の学寮では、従来から、低学年教育の充実、高学年寮生の指導力の育成、留学生との交流による国際感覚の育成を教育上の目的として運営に取り組んできたが、コロナ禍のもとで寮生間のコミュニケーションの機会が失われることが多い状況であった。そのような中でも、指導学生達が感染症対策に気を配りながらのミーティング（指導寮生委員会、班長ミーティング、役員会）を継続的に行った。豊田高専学寮のもつ自主・自律の伝統を守るとともに、各自の指導力を育む機会となった。また、学生が教員とともに新型コロナウイルス感染症対策をしっかり考えた上で実施したイベントが、学寮における文化の維持に一役買っており、12月の「いも祭」と1月の「新年会」は低学年と高学年、留学生が垣根なく交流する数少ない機会となった。

なお、8月末の開寮までの間、学寮には外国からの長期留学生のみが在寮した。国際交流センターと協力しつつ、在寮している留学生を対象とした防災訓練を実施し、また遠隔での授業再開を機会にすべての教職員と学生が使うことになった Microsoft Teams を用いた留学生の安否を確認する体制の整備をおこなった。これは対面授業再開後であっても、特に閉寮期間中に、留学生と教職員がコミュニケーションを取る手段として役立っている。

4.2 今後の予定

令和2年度はコロナ禍の影響を受けての停滞を免れなかったが、今後も低学年指導の充実、高学年寮生の指導力の育成、留学生との交流を通じた国際的感覚を持った高専学生の育成を引き続き図っていく。それらをまずは現状でも実施可能範囲で、低学年寮生、高学年寮生、留学生の皆が関わり合いながら行うアSEMBリ（寮生集会）やイベントを通じて行っていく。低学年指導については、これまで同様、第1学年、第2学年の学年団と情報を共有し連携を取りながら教育を行っていききたい。コロナ禍における学寮の運営には一人ひとりの寮生の協力が不可欠である。特に、指導学生には状況を的確に理解した上で他の寮生への影響力を発揮してもらうことが必須である。以前よりは機会が限定される状況ではあるが、指導学生と密に連携を取りながらの寮運営を行っていく。令和2年度には「国際寮」と仮称されていたシェアハウス型の寮の新設が決まり、着工した。この新寮には公募により集まった案の中から「輝志寮」という名称も決まったが、完成と運用開始は令和3年度になる。将来的には、長期間滞在する留学生との交流に加えて、短期留学生の宿泊の場とするなど学校にいながらにして国際感覚を磨く機会が増えることが期待される。

また、以前から、学寮施設の老朽化への対応やIT環境の整備など、寮生からの具体的な要望や社会・環境の変化により、検討を要する事項があった。令和2年度の末に豊田高専でもっとも古い「栄志寮」の建て替えが決まり、令和3年度に取り壊しと着工、令和4年度中の運用開始を予定している。また、コロナ禍における社会情勢の変化を受け、本校学寮ではこれまで禁じていた低学年のパソコン（タブレットを含む）の使用を令和3年度から認めることとした。しかしながら、残っている古くからの寮の建物の建て替えや、IT環境の整備にはまだまだ時間が必要であり、今後も国立高専機構が進める施設整備計画などとも歩調をあわせながら進めて行く予定である。

5. 研究活動に関すること（担当：総務主事）

5.1 外部資金獲得の促進にかかる取り組み

外部資金獲得の促進に向けて、以下の活動を実施した。

- ① 科学研究費補助金の申請に係る「高専機構本部主催オンライン説明会」を開催し、有志の教員・事務職員が受講した（開催日：9月23日）。【内容】今回の変更点、留意事項、申請の流れ等
- ② 科学研究費補助金の申請に係る「学内説明会」を開催した（説明者：総務主事）（開催日：9月29日）。【内容】今回の変更点、留意事項、作成のポイント、申請の流れ等
- ③ 公正研究推進協会が提供している研究倫理教育 e ラーニング教材「eAPRIN」の受講において、未受験者（新任教員等）に対する案内と指導を行った。
- ④ 総務企画係において、全国の多分野における助成金情報を日常的に収集し、本校に関係のある情報を選択した上で、グループウェアを通して全職員に発信している。

5.2 産業界との技術マッチングの推進

産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究を促進するとともに、効果的な技術マッチングを推進するために、以下の活動を実施した。

- ① とよたイノベーションセンター主催の技術セミナーにおいて、本校の技術シーズを発信した。
- ② とよたイノベーションセンターで受ける技術相談においては、技術マッチングの可能性を考えながら対応している。
- ③ 地域のものづくり企業を訪問し、各社の技術課題を調査するとともに、技術マッチングの可能性を探っている。
- ④ 地域の金融機関（今年度は愛知銀行）に向けて、ものづくり企業における支援の方法に関するセミナー「製造業の目利き力を高める」を開催している。
- ⑤ 豊田地区最大の総合展示会「とよたビジネスフェア」に出展し、産業界とのマッチングを広く推し進めた。
- ⑥ 経済産業省中部経済産業局を通じた情報収集を行うことで、技術マッチングの対象範囲の拡大を図っている。

5.3 研究成果の知的資産化

研究成果の知的資産化と活用に向けて、以下の取り組みを行った。

- ①特許庁における特許登録が2件あった。

5.4 外部資金の獲得

令和2年度の外部資金獲得額の一覧を表5.4に示す。「共同研究」の額が少ないが、本校では、産業界や自治体との連携を、「受託研究」「受託事業」「寄附金」といった形態で実施するケースが多く（それが本校の外部資金獲得の特徴でもある）、それらを合計した額2500万円以上に上っている。

表5.4 令和2年度外部資金獲得額一覧

区 分	金 額
科研費（代表）	23、450、000
科研費（分担）	3、588、000
補助金	855、103
共同研究	3、329、600
受託研究	621、500
受託事業	21、929、000
寄附金（研究以外も 含む）	5、730、000
その他助成金	12、480、000
合計	71、983、203

6. 国際交流に関すること

6.1 海外からの留学者（担当：国際交流センター長）

海外からの留学者のうち、2020年度に新たに第3学年に編入学した外国人留学生は、モンゴルから機械工学科、情報工学科、建築学科に各1名の計3名である。これにより、令和2年度は、マレーシア政府派遣による外国人留学生3名、モンゴル政府派遣による外国人留学生4名、文部科学省国費による外国人留学生3名〔モンゴル(3名)〕、合計10名（うち女子2名）の外国人留学生が学んでおり、全員が学寮で日本人学生とともに生活している。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度前学期は日本人学生と同様、留学生も遠隔で授業を受けた。後学期には対面授業を開始したが、3月に帰省していたマレーシアの2名、モンゴル政府新規派遣の2名が来日できず、彼らが来日してクラスに合流するまでは、引き続き遠隔での授業参加となった。新規外国人留学生歓迎会は実施できず、外国人留学生懇談会も、前学期は遠隔での実施となった。

例年秋に実施してきた研修旅行は中止、平成28年度より豊田市国際交流協会ボランティア「オープンハート」の協力を得て、外国人留学生の希望者に対し1月に実施していたホームステイも中止せざるを得なかった。

各学科や学寮の受け入れ可能人数から考えて、外国人留学生の受け入れを大幅に増やすことはできないが、現状の人数を維持しつつ、来日できない留学生については遠隔での活動を併用しながら、交流の内容を充実させていく予定である。

また、令和元年度に採択された高専機構グローバルエンジニア育成事業に本校の「英語を使うことで育てる学生のグローバルマインド」事業の一環で、国外の学生を短期で受け入れ本校学生と交流活動を行う短期研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面での交流は難しいとして、遠隔で行うことのできる国際交流ビデオコンテストを企画、実施した。第1期（春期）には10名の学生が、また、豊田市との連携により豊田市内の高校生7名も加え第2期（秋期）には本校学生19名と合わせて計26名の学生が、国外の学生とペアを組み、共同でビデオを作成する活動に取り組んだ。

6.2 留学へ行く学生（担当：国際交流センター長）

留学へ行く学生は、過去5年の実績を表6.2のようになっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でほとんどの受け入れ国が受け入れ中止となり、支援団体YFUを利用して長期海外留学に行った学生（1～3年生）は2名にとどまった。令和3年度出発予定者は現時点で39名であり、ワクチン接種等により夏までに新型コロナウイルス感染が落ち着いていれば、令和元年度以前と同規模の学生が留学に出かける準備をしている。令和2年度は豊田市による英国ダービーシャー市派遣も中止され、本校が平成22年度から提携を結んでいるドイツ・アーヘン専門大学への留学者もなく、タイ・シラパコーン大学、ヨルダン・アルバルカ応用大学との学生交流も実現できなかった。

一方、日タイサイエンスフェア（遠隔の高校生交流）には2組4名が参加し、うち1組が代表プレゼンに採択された。

表 6.2 過去 5 年における海外留学人数一覧

	H28	H29	H30	R01	R02
AFS、YFU を利用した長期海外留学(低学年対象)	45	30	34	48	2
トビタテ！留学 JAPAN	1	1	1	0	0
英国ダービーシャー市(低学年対象)	1	1	1	1 中止	中止
ドイツ・アーヘン専門大学(高学年・専攻科対象)	0	1	2	1 (専攻科)	0
海外インターンシップ(高学年・専攻科対象)	0	0	0	2 (外国人留学生1)	0
タイ・シラパコーン大短期研修(高学年)				2	0
日タイサイエンスフェア(低学年対象)				4	4 (遠隔)
国際交流ビデオコンテスト					29
その他(休学による私費留学)	5	0	1	3	0

6.3 海外インターンシップ(担当：専攻科長)

海外インターンシップ(JSTS、ISTSへの参加を含む)に参加した学生数を表 6.3-1 に示す。数年前の専攻科企画・管理室会議にて議論を重ねたが(H28.4.1、4.18、4.25、5.9、5.23、6.27各議事録)、現状の海外インターンシップには、参加経費(学生負担)が高額で、実施時期にも問題(本校の授業と重なり、休学が必要な場合もある)があるため、参加者数

増加は難しいと判断している。さらに令和2年度はコロナウィルスの影響で海外に行くことができなかったため、海外インターンシップに参加した学生はいなかった。

表 6.3-1 海外インターンシップ参加数

年度	H27	H28	H29	H30	R01	R02
人数	3	1*	1*	1*	1	0

* JSTS、ISTS への参加

7. 社会との連携に関すること（担当：総務主事）

7.1 公開講座・出前講座

令和2年度に実施した科学技術啓発活動はコロナ禍のため、実施の自粛が相次いだ。

- ① 年間 11 件の公開講座を開催予定であったが、うち 8 件が中止となった。実施された 3 講座の受講者の合計は 52 名、申込者合計は 89 名であった。参加者アンケートの結果、「受講して良かったと思いますか」の問いに対して「とても良かった」が 43 名、「良かった」が 7 名回答しており、98%の参加者が「満足した」と回答した。
- ② 年間 10 件の出前講座（県内の小中学校に出向いて講座を実施）を行った（本年度は小学校中高学年のみ）。訪問した小中学校の場所は、西三河地区にとどまらず、名古屋地区・尾張地区・東三河地区といった県内全域にわたっている。12 月には末松元校長先生の講座も尾張旭市において行われた。

7.2 地域企業と連携した共同教育の実施について

地域企業と連携した共同教育を実施し、企業の技術者と本校の学生が協力して産業界の課題に取り組んできたが、令和2年度は、コロナ禍のため実施できなかった。令和3年度については実施予定である。

7.3 産学連携によるリーダー技術者養成講座『デジタル×ものづくり』カレッジの企画・運営

本講座では、企業の技術者と本校の専攻科生が混成チームを構成し、製造現場の実践的課題に対して、デジタル技術を使ってチーム一丸となって問題解決にあたる。この体験を通して、ものづくりを俯瞰できるリーダー技術者の養成を図る。毎週水曜日 1 日の講座を年間 15 回にわたって、本校地域共同テクノセンターを拠点として実施する。

令和2年度は、企業の技術者 15 名と専攻科学生 14 名の計 29 名が修了した。

7.4 産学連携による社会人向け夜間講座「製造技術者育成講座（基礎）」の開講

本講座は、高専教員が主に講師を務め、製造現場で必要となる基礎的な知識について、豊富な演習をベースに展開する、テーマ別の実践的な講座である。1 講座あたり、夕方 17 時から 30 時までの 3 時間を 10 回実施する。会場は、地域共同テクノセンターを利用する。

- ① 「機械製図の基礎」（1 回目）[定員 15 名]： 受講者数 16 名（修了者数 16 名）
- ② 「機械製図の基礎」（2 回目）[定員 15 名]： 受講者数 13 名（修了者数 12 名）
- ③ 「生産設備制御・保全技術」[定員 10 名]： 受講者数 10 名（修了者数 10 名）
- ④ 「電気・電子回路およびセンサー基礎」[定員 8 名]： 受講者数 8 名（修了者数 6 名）

7.5 産学連携による社会人向け研究会「IoT 研究会」の企画・運営

IoT に興味のある企業技術者が月に 1 回集まり（登録制）、各社の取り組みの紹介や、技術セミナーの開催、発表会、グループワーク等を行っている。今年度は、オンラインで実施した。年間 12 回のイベントを開催し、のべ 98 名の企業技術者が参加した。

7.6 産官学金連携会議「豊田市ものづくり人材育成官民協議会」の設立

ものづくりに携わる豊田市内の中小企業及び小規模製造業者において、自動化技術や IoT を活用して、省人・省力化を実現できる人材を育成するための支援施策を官民共同で検討するため、「豊田市ものづくり人材育成官民協議会」を設立した。本校は、本会議の議長として、会議の進行ととりまとめを担当している。

8. 学校運営に関すること

8.1 本科入学者の質・数の確保（担当：教務主事）

令和3年度の本科入学試験の志願者数と合格者数を表8.1-1に示す。本件は、2回の入試委員会（R3/3/11）で報告・審議された。昨年度に比べ、推薦の志願者数は53名、全志願者数は79名減少した。また、女子学生の入学者数は昨年度よりも6名増えて56名であった。愛知県の中学3年生の人口が減っていること、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で対面での学校説明会などの行事を十分に実施することができなかったことを考慮すれば、これまで数年間おこなわれてきた志願者確保のための活動に大きな問題はないと言える。令和3年度はこれまで通りの対面による行事をできるだけおこなっていく。

表8.1-1 令和3年度の本科入学試験の志願者数と合格者数一覧

学 科 名		機械工学科		電気・電子システム 工学科		情報工学科		環境都市工学科		建築学科		計	
志 願 者 数	推 薦	41	(9)	55	(9)	96	(17)	39	(18)	56	(26)	287	(79)
	学 力	38	(2)	40	(4)	60	(5)	27	(4)	30	(13)	195	(28)
	合 計	79	(11)	95	(13)	156	(22)	66	(22)	86	(39)	482	(107)
倍 率		2	倍	2.4	倍	3.9	倍	1.7	倍	2.2	倍	2.4	倍
合 格 者 数	推 薦	13	(4)	13	(4)	14	(4)	12	(10)	12	(6)	64	(28)
	学 力	31	(5)	30	(0)	29	(5)	31	(6)	31	(13)	152	(29)
	合 計	44	(9)	43	(4)	43	(9)	43	(16)	43	(19)	216	(57)
入学辞退者数		0	(0)	2	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(1)	3	(1)
入学予定者数		44	(9)	41	(4)	43	(9)	43	(16)	42	(18)	213	(56)

() は内数で女子を示す。

令和3年度入学生の新入生学力試験（問題は過去数年間同じ）の結果を表8.1-2に示す（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していない）。この結果については、教務委員会（R3/4/27）で報告・審議した。

学年全体の平均では、3教科合計、数学、英語で過去5年間中最高得点、あるいは最高得点とほぼ同点であった。また、各学科での過去5年間の3教科合計を比較しても、良好な結果であった。コロナ感染症による休校等の学力への影響は小さいように思われ、入学生の質は確保されていると言える。

表 8.1-2 令和3年度新入学生学力試験結果および過去5年間の合計点の推移

		1 M	1 E	1 I	1 C	1 A	学年全体
国語	R3	75.9	78.5	78.9	75.7	74.7	76.7
	R2	————	————	————	————	————	————
	H31	77.4	79.3	80.5	75.5	77.0	77.9
	H30	79.6	76.5	77.5	74.6	76.4	76.9
	H29	74.9	77.6	78.2	74.4	74.3	75.9
数学	R3	83.8	90.4	83.2	88.4	89.0	86.9
	R2	————	————	————	————	————	————
	H31	84.0	85.5	91.9	88.4	85.6	87.0
	H30	84.0	84.6	84.4	83.0	83.6	83.9
	H29	85.2	85.9	86.3	85.5	82.9	85.2
英語	R3	75.2	73.4	77.3	67.8	73.2	73.4
	R2	————	————	————	————	————	————
	H31	72.9	75.1	77.5	70.7	65.6	72.3
	H30	72.8	73.1	75.5	70.8	71.9	72.8
	H29	66.6	74.6	77.5	67.3	73.5	71.9
3教科合計	R3	234.9	242.2	239.5	231.8	236.9	237.0
	R2	————	————	————	————	————	————
	H31	234.3	240.0	250.0	234.6	228.2	237.3
	H30	236.3	233.9	237.4	228.4	231.9	233.6
	H29	226.8	238.6	241.4	226.9	230.8	232.8

8.2 専攻科入学者の質・数の確保（担当：専攻科長）

本年度専攻科入学者の選抜状況を過去3年間の状況と一緒に表 8.2-1 に示す。昨年度の自己点検・評価報告書でも記述してあるが、本校では、認証評価において専攻科入学者が定員を大幅に超えているとの指摘を受けることを懸念し、専攻科合格者を定員の1.5倍（30名）以内に抑えてきた。そのため、過去3年間の入学者は21～25名で推移し、専攻によっては定員を下回ることも散見された。入学者数の安定確保にむけて、令和3年度入学生から学力および社会人特別選抜における英語の試験を TOEIC に切り換える決定を行い（2019年4月9日第1回入学試験委員会議事録）、令和2年6月6日の学力選抜試験から実施した。定員に対する入試倍率は過去3年間に比べてわずかに上昇して2倍となったが、入学者数は21名にとどまった。なお、コロナウイルス感染症対策のため、推薦選抜、学力選抜ともに面接は実施せず、その代わりに志望調書に記述された内容で合否判定を行った。

表 8.2-1 専攻科入学試験の志願者数、合格者数と入学者数

年度		H30 年度	H31 年度	R02 年度	R03 年度
志願者数	推薦	15	18	15	16
	学力	18	14	23	24
	合計	38	32	38	40
倍率		1.9	1.6	1.9	2.0
合格者数	推薦	15	18	15	16
	学力	11	9	11	12
	合計	26	27	26	28
入学者数		21	25	22	21

専攻科入試合格者の平均点を表 8.2-2 に示す。推薦入試合格者の評定平均は全専攻とも 3.6 以上であり、入学者の質は確保できている。学力入試合格者（情報科学専攻は合格者なし）の平均点も、英語は TOEIC 換算値で 76 点以上（TOEIC スコアで 530 点以上）、数学で 55 点以上、専門で 140 点以上であり、入学者の基礎的な学力は確保できていると判断している。

表 8.2-2 令和 3 年度専攻科入学試験の結果

合格者平均点		電子機械	建設工学	情報科学
推薦入試	評定	3.8	3.6	3.9
学力入試	英語*1	76	86	-
	数学	55	55	-
	専門*2	140	155	-

*1 TOEIC 換算値

*2 専門は 200 点満点

8.3 教員の質の確保

1) 常勤教員に関して（担当：教育改善推進室長）

コロナ禍ではあったが、概ね予定されている教育改善推進室の FD 活動は実施できた。まず、例年実施している授業改善のためのアンケートを全ての授業科目において実施した。そして、アンケート結果に対する対応策を担当教員が作成し、アンケート結果と合せて学内で公開するとともに、対応策を次年度の授業で説明した。本校教員の資質向上、授業改善を目的として、教育改善の PDCA サイクルとして、機能していると考え。なお、前期の授業アンケートは遠隔であったため質問項目を授業実態に沿うように変更した。アンケート結果を前年度と比較したが、取り立てて違いはなく。遠隔授業による授業については大きな問題はなかったと考える。

教員相互に授業を聴講する「授業公開」を、例年通り、前学期：5 月 28 日（木）～ 6 月 10 日（水）と後学期：12 月 10 日（木）～ 12 月 23 日（水）の各 2 週間行い、延べ 97 件の聴講を行い、相互に授業を聴講し、授業改善に努めている。とくに、前学期は遠隔授業中であり、教員相互に遠隔授業運営の情報交換ができたと考えている。また、AL 等優れた教育

実践例を10月末にまとめ、まとめたものを授業公開週間に合わせて学内の教員へ公開して授業改善を図る一助とした。そして、授業に対する学生からの生の声を聴く機会として、昨年度同様に、幅広く多様な学生からの意見聴取をするために、対象を各専門学科3年生から5年生、専攻科の各クラス代表を選出して、M科：1月13日(水)、E科：2月3日(水)、I科：2月25日(木)、C科：2月10日(水)、A科：12月9日(水)に実施して、教育改善推進室で内容をまとめて各科へフィードバックし授業改善に努めた。なお、授業公開週間をはじめ形骸化しているFD活動もあるため、教育改善推進室で、本校のFD活動の見直しを行い、次年度から授業聴講週間は設けず、適宜授業聴講を行い、FD活動全体の自己点検を年度末に実施することとした。

一方、教育、指導の質の向上のため、新任教員交流会を4月24日(金)、7月7日(火)、2月15日(月))を開催し、学生の教育、指導方法や教授法について情報交換を行った。また、同様の意見交換、情報交換の場として、「TOYOTA Round-Talk」と題して、12月17日(水)、2月15日(月)に、遠隔授業や業務効率を図るための在り方など、フリーに意見、情報交換を行った。

年次計画の活動として、ディプロマポリシーに基づく到達目標の確認は、卒業/修了時に実施するアンケートを用いて2月末に行い、分析、今後の対応をまとめた。本校における教育方法、環境等について調査結果をまとめ、それを各科へフィードバックして教育改善に図った。アンケート結果では、文系科目、特に英語が重要であると捉えられていることがわかった。英語の文章力や発表力に不安や不満を抱えており、今後国際化社会がますます進んでいくことが予想されるため、基本的な英語力の必要性は高いと考える。在校生の学習状況の確認として、前年度に実施したCBT(Computer-Based Testing)の結果を学科毎の平均正答数を用いて分析し、その報告を5月に開催した教務委員会で諮り、学習状況調査を行い、分析ならびに対応をまとめている。

地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))実施状況を10月末までにまとめ、学内に展開した。

外部のFD研修としては、コロナ禍で研修等が開催されていないこともあったが、例年ネット会議で実施されている第3ブロックのアクティブラーニング推進研究会(7月30日(木)、1月29日(金)開催)に参加して、アクティブラーニング、遠隔授業に関するFD活動の情報共有を行った。また、遠隔授業やICTを活用した教育として、BYOD(Bring your own device)に関するFDシンポジウムを12月3日(木)に外部講師を迎え(遠隔)開催し、今後導入のきっかけとした。

2) 新規採用教員に関して(担当：教務主事)

令和2年度中に5名の教員の採用を決定し、令和3年度から採用した。内訳は、一般学科3名(国語科1名、英語科2名)、機械工学科1名および電気・電子システム工学科1名である。書類審査等は例年通り行い、面接(自己PR、模擬授業、質疑応答)によって候補者を決定した。各学科長が作成した各候補者の人事書類を基に、教授会(R1/9/2)(R3/1/13)(R3/2/17)で報告・審議した。新規採用した教員の内、1名は女性教員(国語科)であり、少しずつではあるが女性教員の割合を増やすことができている。

8.4 予算・決算について（担当：総務課課長補佐（財務担当））

予算については、総務会議（2/4/14 並びに 2/5/12）で「令和2年度校内予算配分について」審議・決定した。高専機構では常勤教職員人件費、退職手当及び法定福利費は機構本部に配分され、その他の経費が各高専に支出予算として配分されている。支出予算の財源は授業料等の自己収入と運営費交付金で構成され、高専機構の運営費は、中期計画の運営費交付金算定ルールに基づき、設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び特別に措置しなければならない経費を除き、効率化を図ることとされ、対前年度1%（一般管理費については3%）減額されている。具体には高専機構全体で約4.5億円（前年度4.6億円）の効率化減による予算が削減され、引き続き厳しい財政状況が続いている。このような背景のなか、昭和38年創立当時の老朽化した施設・設備に対して令和2年度は概算要求による施設整備補助金事業3件が実施され、関連する工事費等施設整備補助金等の不足分を校内予算から捻出する厳しい財政状況となったが、校長裁量経費や教育研究実施経費等の確保に努めた。校長裁量経費では、公募型の教育研究プロジェクト経費やインセンティブとなる教員顕彰経費の配分など、教育研究活動を一層活性化させる取組を実施した。また、高専機構では財務会計システムで予算管理等を一元管理しており、各予算の担当者が執行状況等を随時確認することができ、加えて執行状況を総務会議で報告し、計画的な予算執行を呼びかけ、1月末までに年度内の執行計画の財務会計システムへの入力を完了させることによって、全体の執行残額を把握し、予算不足により留保していた正門ロータリー周辺歩道整備工事等を実施した。さらに、本年度前学期は、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による遠隔授業等の実施により、学生の出校が禁止されたことから、例年に比べ光熱水量費の25%程度の削減となり、授業用機器等の更新、LED照明化、防球ネットの増設、及び女子トイレの改修工事等校長のリーダーシップによる戦略的な予算執行が実施された。

なお、令和2年度の貸借対照表は表 8.4-1、決算は表 8.4-2、自己収入については表 8.4-3 のとおり継続的に安定した収入を確保している。

表 8. 4-1

貸借対照表(令和2年度)			
		(単位:円)	
資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	5,935,125,540	[負債の部]	1,238,015,292
流動資産	38,547,298	流動負債	448,181,194
現金及び預金	38,101,475	預り寄附金	27,912,645
現金	209	預り寄附金(直接経費)	27,912,645
普通預金	38,101,266	前受受託研究費等	1,202,100
棚卸資産	185,020	前受共同研究費	1,202,100
未成研究支出金	185,020	その他(直接経費)	1,077,000
未収入金	238,340	その他(間接経費)	125,100
未収入金	238,340	未払金	303,976,163
前払費用	22,463	リース債務	5,588,345
前払費用	22,463	その他未払金	298,387,818
未経過保険料	22,463	未払費用	14,335,252
固定資産	5,896,578,242	給与	4,415,742
有形固定資産	5,883,677,857	社会保険料	111,483
建物	4,208,548,671	水道光熱費	3,323,267
建物	2,833,662,591	未払利息	28,462
建物附属設備	1,374,886,080	その他未払費用	6,456,298
建物減価償却累計額	▲ 2,310,885,332	預り金	100,755,034
構築物	516,556,719	科学研究費	22,605,180
構築物減価償却累計額	▲ 275,141,323	科学研究費(直接経費)	18,232,608
車両運搬具	9,960,922	科学研究費(間接経費)	4,372,572
車両運搬具減価償却累計額	▲ 9,693,168	源泉所得税	8,168
工具器具備品	1,262,810,948	その他預り金	78,141,686
工具器具備品減価償却累計額	▲ 1,132,871,500	固定負債	789,834,098
土地	3,436,000,000	資産見返負債	769,270,332
建設仮勘定	178,391,920	資産見返運営費交付金等	552,486,600
無形固定資産	12,900,385	資産見返運営費交付金	379,534,290
ソフトウェア	12,879,385	資産見返授業料	172,952,310
電話加入権	21,000	資産見返補助金等	21,845,614
[本支店勘定]	399,382,256	資産見返寄附金	16,546,140
[本支店]機構本部(統括)	11,247,094	資産見返物品受贈額	58
[本支店]群馬工業高専	24,027	建設仮勘定見返運営費交付金等	6,721,000
[本支店]機構本部 管理課	388,111,135	建設仮勘定見返授業料	6,721,000
		建設仮勘定見返施設費	171,670,920
		長期預り寄附金	1,253,340
		長期未払金	19,310,426
		[純資産の部]	5,097,064,786
		資本金	5,352,971,664
		政府出資金	5,352,971,664
		資本剰余金	▲ 255,906,878
		資本剰余金	2,620,347,245
		資本剰余金施設費	2,032,486,163
		資本剰余金補助金等	571,932,616
		資本剰余金目的積立金	15,788,466
		資本剰余金譲与	140,000
		減価償却相当累計額	▲ 2,660,209,873
		減損損失相当累計額	▲ 119,000
		除売却差額相当累計額	▲ 215,925,250

表 8.4-2

決算報告書（令和2年度）			
[収入額]		[支出額]	
区分		区分	
運営費交付金	1,101,617	人件費	1,121,489
施設整備費	369,210	物件費	395,683
授業料・入学料及び検定料	296,520	施設整備費	369,210
雑収入	9,336		
外部資金	38,140		
その他補助金	68,056		
合計	1,882,879		1,886,382

表 8.4-3

自己収入の状況（平成29年～令和2年度）				
区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
授業料	253,481	254,424	252,447	267,225
入学料	20,100	20,414	19,737	20,524
検定料	8,062	8,436	10,053	8,771
雑入	11,862	12,815	12,729	9,336
	293,505	296,089	294,966	305,856

8.5 研究活動外の外部資金について

教育講演会より令和2年度教育助成寄付金として前期240万円、後期200万円の助成があった。

9. 施設整備に関すること（担当：施設環境整備委員長）

9.1 現状

令和2年度は、昨年度の補正予算で新設された創造工房棟（RC造2階建）の竣工式から始まった。この建物は、1階が実験スペースで、2階が多目的なオープンスペースであり、天井を通常より1m程度高くしているために、講演会やアクティブラーニングの授業、また、ロボカップ競技の試合や練習など稼働率が予想以上に高く評判は非常に良い。さらに、この建物の2階廊下は、専攻科棟と情報工学科棟を連結する通路を兼ねており、今まで孤立していた専攻科棟に1、2階東側からの出入り口ができて、移動距離が短縮されるとともに、雨天などの天候を気にせずに移動ができるようになった。

新型コロナウイルスの影響で、通学に車を利用する学生が増加して、また、ライフライン再生工事や国際寮の新設工事で第1駐車場の一部と第3駐車場が使用禁止になったために駐車場が不足してきた。そこで、学内のインターロッキングされたスペースに臨時の教職員駐車スペースを設けた。さらに、10月には野球場の北側の駐車場に打球の心配なく停められるように、高さ10m以上のネットを全面に新設した。また、学生の多くが利用する第2駐車場は、白線の間隔が狭かったため、2021年3月に拡幅工事と白線の引き直しを行い、初心者や大きな車でも余裕を持って駐車できるように改修した。

<概算要求工事>

令和元年度12月から始まった基幹・整備計画（消火給水）は、令和2年度にはライフライン再生Ⅰ（寮側の排水）とⅡ（校舎側の排水）に引き継がれ、寮側は令和2年度末に工事が完了したが、校舎側では舗装道路下の排水管や雨水管の改修工事が現在も行われている。校舎側の配管工事が終わり、校内全域のアスファルト舗装工事が完了するのは令和3年7月末の予定である。

令和2年度概算要求で採択された国際寮新営工事は、設計業務を17高専とも高専機構本部が担当することになった。しかし、東京都の新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の影響で、約2ヵ月間設計業務が遅延し、また、豊田市役所からの許可着工は10月で、工事完了が6月末になった。豊田高専の対応は、寮務主事をWG長として国際寮新営WGを立ち上げて、機構本部からの設計案に対して様々な意見を提出し、豊田だけの設計変更をしてもらった。また、担当する施工会社は創造工房棟に引き続いて太啓建設（株）であり、対応する施設係員も昨年度から引き続いて本校のOBなので、新設工事による施設系のオーバーワークはあまり生じず、順調に工事が進展している。

令和2年11月にコロナ対応の特別予算として、前年度に営繕要求工事として申請していた、情報工学科棟講義室と第2講義棟（ほぼ全部屋）の空調設備更新が採択され、工事を年度内に実施することになった。

<概算要求の申請>

令和3年度概算要求事業は、①混住型学生寮（栄志寮の建て替え）新営工事、②新講義棟改修工事、③情報工学科棟改修工事、④図書館の改修工事の順番で要求した。結果は、①と②はS評価となったが、①のみが採択された。

< 営繕要求工事 >

令和元年度の営繕要求工事の採択はなかった。しかし、2位で要求していた「情報工学科棟講義室空調設備改修」3位で要求していた「第2講義棟空調設備改修」は、コロナ対応の特別予算で採択され、年度末に実施された。

令和2年度の営繕要求工事は前年度と引き続き「情報工学科棟女子トイレ等改修」を要求した。しかし、またしても予算化はされなかった。そのために学内営繕工事で、情報工学科棟の1と2、4階のトイレの一部のみを洋式トイレに改修した。

< 学内営繕工事 >

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、入学式も中止され、本科生は4月から8月まで遠隔授業となり校内にはほとんど学生はいなかった。そのため水道光熱使用量が減少し、年度末には約1千万円の校内予算が余る事態となった。

そこで、2020年度後期の評議員会学生意見を考慮して、(1)～(5)を行った。

- (1) 創造工房棟前の法面に階段を設置した
- (2) 第1体育館の2階へ登る梯子の頂部に手摺を設置した
- (3) 情報工学科棟1、2、4階のトイレの一部を洋式トイレに改修した
- (4) 機械工学科棟玄関前の屋根の継ぎ目に屋根を追加した
- (5) グラウンドと野球場に土を入れて整備した

この他に、教職員からの要望で以下の(1)～(4)を行った。

- (1) 建築学科棟廊下階段のLED化と人感センサーの設置
- (2) 情報工学科棟講義室黒板灯設置
- (3) プール屋上の防水工事
- (4) 第1体育館北東側に自転車置き場の設置

2020年度 後期評議員会 学生意見 (施設関係のみ)		
クラス	意見	備考
1M	創造工房棟前ののり面に階段をつけてほしい	
1M	第1体育館の2Fへ登るはしごに手すりをつけるなどしてほしい	掴まるものがなにもなく、あぶないため
2C	トイレを全て洋式にして欲しい	和式派もいる
5C	第2講義棟前、グラウンド前の舗装が剥がれている道路を補修してほしい	
5E	駐車場を増設して欲しい	
5M	玄関から機械科研究室の間の屋根の繋ぎ目に屋根をつけてほしい	雨の日にぬれてしまう
5M	グラウンドの整備の頻度を上げてほしい	
2E	電気科のトイレが流れにくい	男子、女子のどちらなのか
2I・4I	情報工学科のトイレの改修を早く	

9.2 改善の必要性の有無、もしくは、今後の予定

上記のように今年度は、年度末の1月に約1千万円の校内予算が余る事態となり、急遽、学内営繕工事を行うことになった。しかし、工事期間が短いために、情報工学科棟トイレ改修は十分な工事ができず、学生からの要望にも完全には答えられなかった。また、施設環境整備委員会でも予算執行に十分な審議をする機会がなかった。

そのため校内予算管理は、改善の必要性が有ると思われる。

10. 自己点検・評価体制に関すること（担当：総務主事）

令和3年度に機関別認証評価を受審するにあたって、自己点検・評価の在り方や本校の自己点検・評価に対する教職員からの意見の集め方について等、様々な議論がなされた。これらについての実際の改善策は令和3年度に実施予定である。

11. その他